

第 2 3 回川崎病全国調査成績

特定非営利活動法人
日本川崎病研究センター

川崎病全国調査担当グループ

[連絡先]
〒 329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局
連絡担当 屋代真弓・牧野伸子・中村好一

TEL 0285-44-6192
FAX 0285-44-7217

2015 年 9 月

第 23 回川崎病全国調査成績

はじめに

1970 年以来 2 年に 1 回の間隔で 22 回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた¹⁻³⁹⁾。今回 2013 年～2014 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 23 回川崎病全国調査の成績がまとまった。2 年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例(初診時の異常、急性期の異常、後遺症)、初診時病日、不全型主要症状の数、免疫グロブリン(IG)治療(不応例の有無、ステロイド併用の有無と内容、初回 IG 投与施設)、初回 IG 投与後の追加治療(追加 IG 投与、ステロイド投与、infliximab 投与、免疫抑制剤投与、血漿交換)、初診時の検査値(Hb 値、ALT [GPT] 値、血清 Na 値)などの疫学像並びに臨床像を明らかにしたので、これまでに得られた過去の調査成績と比較しながらその概要を報告する。

I. 方法

第 23 回川崎病全国調査は、小児科を標榜する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の小児専門病院を 2013 年 1 月 1 日より 2014 年 12 月 31 日の 2 年間に受診した川崎病初診患者を対象に郵送(一部、インターネットサーベイランス(<http://www.kawasaki-disease.net/kawasakidata/>)参加の施設には電子メールでも依頼)により実施した。(添付の調査票様式参照)

施設の選定は、前回使用した医療機関のリストに、その後調査時点までの変更を更新したものをを用いた。対象候補施設数は 1,973 か所であった。

本調査は、自治医科大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(2014 年 10 月 10 日、疫 14-50)。

II. 調査結果

1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した 1,973 施設のうち、廃院等の連絡があった 30 施設を除く 1,943 施設を調査対象とした。回答は 1,456 施設から得られ、回収率は 74.9 %であった。そのうち、ホームページより調査票をダウンロードして Excel ファイルで回答した施設が 121 か所、インターネットサーベイランス参加施設で登録済みの患者ファイルを使用して回答した施設が 32 か所であった。なお、サーベイランス参加施設でも調査票郵送により協力を得たところもある。

回答があった 1,456 施設のうち、患者報告があった施設は 950 施設(回答施設の 65.2 %)であった。回答率は、都道府県によって 53.1 %～95.7 %の開きがみられ、前回の調査と大きな違いはなかった。

2. 年次推移

今回の調査で報告された 2 年間の患者数は、2013 年 15,696 人(男 9,044 人、女 6,652 人)、2014 年 15,979 人(男 9,097 人、女 6,882 人)のあわせて 31,675 人であった(表 1)。今回の集計では他施設受診の重複患者 732 人は除外した。

0-4 歳人口 10 万対罹患率は、2013 年 302.5 (男 340.1、女 262.9)、2014 年 308.0 (男 342.2、女 272.0)であった。2014 年の罹患率は、史上最高値になった。2 年間平均の罹患率は 0-4 歳人口 10 万対 305.3 (男 341.3、女 267.5)であった。

患者数の性比(男/女)は 1.34、罹患率の性比は 1.28 でいずれも男の方が高く、前回と比較して今回は性比が小さくなった。過去 22 回の全国調査で報告された患者を含めると 2014 年 12 月末までの患者数は、合計 331,115 人(男 191,448 人、女 139,667 人)になった。

川崎病患者数の年次推移は、表 1、図 1 に示すとおりである。1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたる全国規模の流行の後、1990 年代半ばから年次とともに患者数の増加が続き、2005 年以降の年間の患者数は 10,000 人を超え、2006 年には第 1 回目の流行年(1979 年)の約 1.5 倍となった。2010 年には 12,000 人を超え、第 3 回目の流行年(1986 年)に匹敵する患者数となった。

さらに 2013 年には 15,000 人を超えており、第 2 回目の流行年(1982 年)の患者数を超えた。近年患者数は急勾配で加速し、今回の 2 年間の患者数の増加は著しい。

罹患率の年次推移をみると、表 1、図 2 に示すように、2013 年は 0-4 歳人口 10 万対 302.5、2014 年は 308.0 であり、前回までの史上最高値を更新している。特に注目したい点は、2013 年、2014 年の報告患者数は、第 2 回目の流行時の患者数(15,519 人)とほぼ同じ数であるのに対して、罹患率は 2013 年 1.54 倍、2014 年 1.57 倍に上昇していることである。その理由として罹患率算出の際の分母となる 0-4 歳人口が少子化の影響で減少したことが挙げられる。

3. 月別推移

最近 14 年間の月別、性別患者数を図 3 に示す。月別患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっている。最近数年間の季節変動を見ると、秋(9-10 月)は少なく、春から夏にかけての増加が観察された。2013 年、2014 年 1 月のピークは史上最高値を示し、秋以外の他の月でも患者数は多くなっていた。過去 3 回(2009 年～ 2014 年)の調査について、月別患者数の平均を観察したところ、季節傾向がきれいな曲線になっていた(図 4)。

4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢分布をみると、3 歳未満の者の割合は全体の 63.5 % (男 64.6 %、女 62.1 %)であった(表 2)。2013 年、2014 年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢 9-11 か月にピーク(人口 10 万対 男 564.4、女 392.0)をもつ一峰性の山がみられた。前回実施した 2011 年、2012 年の成績でも月齢 9-11 か月にピークがみられたが、女は 6-8 か月も高かった。罹患率の性比は、月齢 6-8 か月の者で最も大きく 1.49 であった(図 5)。

5. 地域分布

2 年間の患者住所都道府県別報告数が最も多かったのは東京で 3,582 人、次いで神奈川 2,404 人、愛知 2,256 人、大阪 2,183 人の順であった。年次別都道府県別罹患率を 0-4 歳人口 10 万対で計算した(2011-2012 年の罹患率は 2012 年の住民基本台帳人口、2013-14 年の罹患率は 2014 年の住民基本台帳人口を用いて計算した。全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし 2014 年は 2013 年の推計人口を使用))。2013 年、2014 年両年とも罹患率が高いところは、東京、愛知、大分などであった。2013 年の罹患率が高いところは、群馬、富山などで、2014 年の罹患率が高いところは、長野、岐阜、滋賀などであった。今回も全国各地で局地的に患者数の増加があったと考えられる。2 年間とも低いところは、鳥取、佐賀、沖縄などであった(表 3)。

2011 年～ 2014 年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した(図 6)。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ数の患者がいると仮定して回収率を 100 % に補正して、0-4 歳人口 10 万対罹患率の地域差を示した。2011 年に罹患率の高い地域は、群馬、熊本で、2012 年には、隣接する地方に高率地域が拡大した。2013 年には九州地方の高率地域は消失し、関東、近畿、中国、四国の一部の地域が高率になり、2014 年には中国、甲信越地方に高率地域が広がっていた。

6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例 78.5 % (男 78.4 %、女 78.7 %)、不定型例 1.9 % (男 2.1 %、女 1.8 %)、不全型 19.5 % (男 19.5 %、女 19.5 %)であった。年齢別にみると、2 歳未満の若年齢および年長児で不全型の割合が比較的高く、前回の調査とほぼ同様の結果であった(表 4)。

なお、定型例(調査票では「確実 A」とした)は「川崎病診断の手引き 改訂 5 版」(2002 年 2 月に診断の手引きが改訂され、第 17 回全国調査から改訂 5 版を使用)に示された 6 つの主要症状のうち 5 つ以上の症状を伴う者、不定型例(「確実 B」)は 4 つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは心血管造影法で、冠動脈瘤(いわゆる拡大を含む)が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また不全型(「不全型」)は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

不全型の主要症状の数は 4 つが最も多く 69.0 %、次いで 3 つ 24.6 %、2 つ 5.3 %、1 つ 0.7 %、不明 0.4 %であった。性別にみてもほぼ同様の割合であった。年齢別には、1 歳未満で 3 つ以上の症状を持つ患者の割合がやや低くなっていた(表 5)。

7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中 592 人(1.9 %) (男 338 人(1.9 %)、女 254 人(1.9 %)) であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは 315 人(男 193 人、女 122 人) 報告され、報告患者中 1.0 % (男 1.1 %、女 0.9 %) であった。既往歴を有する両親の内訳は父 146 人、母 163 人、不明 6 人であった。

8. 再発例

再発例は報告患者中 1,329 人(4.2 %) (男 796 人(4.4 %)、女 533 人(3.9 %)) であり、前回よりも増加した。

性・年齢別にみると男は 2 歳まで、女は 3 歳までは年齢とともに再発患者の割合が増加、男女とも 6 歳までは割合が高かった。

9. 死亡例

死亡例は 2 年間で 8 人(男 6 人、女 2 人) 報告され、致命率は 0.03 % であった。死亡例の初診時年齢は 0-5 か月が 2 人、6-11 か月が 2 人、1 歳が 3 人、4 歳が 1 人であった。死亡例の診断はすべて定型例であった。(表 6)

10. 心障害例

心障害については、前回の調査から「初診時の異常」を追加し、発病後 1 か月以内に出現した「急性期の異常」と 1 か月以降も残存する「後遺症」の 3 時点に分けて調査を実施した。

報告患者中、「初診時の異常」は 1,339 人(4.2 %) (男 871 人(4.8 %)、女 468 人(3.5 %)) であった。「急性期の異常」は 2,696 人(8.5 %) (男 1,785 人(9.8 %)、女 911 人(6.7 %))、「後遺症」は 822 人(2.6 %) (男 575 人(3.2 %)、女 247 人(1.8 %)) であった。初診時、急性期、後遺症ともに異常ありの割合は前回よりも減少した。「後遺症」は「急性期の異常」に比べて男女とも約 3 分の 1 以下であった。性・年齢別にみると若年児と高年児が高く、ゆるやかな U 字型のカーブを示していた。「急性期の異常」と「後遺症」の割合は、年長児では女が高くなっていた(図 7)。「急性期の異常」と「後遺症」のどちらの割合も、第 15 回調査(1997-1998 年)から今回の第 23 回調査(2013-2014 年)の間にゆるやかに減少していた(図 8)。

報告患者に占める「初診時の異常」の種類別割合は冠動脈の拡大 3.27 %、弁膜病変 0.62 %、瘤 0.39 %、巨大瘤 0.07 %、狭窄 0 %、心筋梗塞 0 % であった。性別にみると、弁膜病変以外すべて男が高かった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、瘤の出現率は、2 歳未満で拡大、弁膜病変の出現率は、2 歳以上で高率にみられた。

報告患者に占める「急性期の異常」の種類別割合は冠動脈の拡大 6.30 %、弁膜病変 1.16 %、瘤 1.05 %、巨大瘤 0.19 %、狭窄 0.01 %、心筋梗塞 0.01 % であった。性別にみると弁膜病変以外はすべて男で高かった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、巨大瘤、弁膜病変の出現率は 2 歳以上で高率にみられた。

報告患者に占める「後遺症」の種類別割合は冠動脈の拡大 1.48 %、瘤 0.81 %、弁膜病変 0.27 %、巨大瘤 0.20 %、狭窄 0.03 %、心筋梗塞 0.01 % であった。性別にみると、弁膜病変以外すべて男で高かった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、瘤、拡大以外の出現率は、2 歳以上で高率にみられた。特に巨大瘤は、2 歳以上が 2 歳未満の約 1.8 倍の出現率であった。

心障害の種類別の出現頻度の観察では、巨大瘤は初診時に比べ、急性期、後遺症で約 3 倍になっていた。瘤は初診時に比べて、急性期に 2.7 倍となり、その後、後遺症でやや減少した。冠動脈の拡大は、初診時に比べ、急性期に約 2 倍となり、その後後遺症では初診時の半分に以下に減少した。狭窄、心筋梗塞はあまり変化がみられなかった。弁膜病変は、初診時に比べ後遺症では約 4 割に減少していた(表 7)。

11. 初診時病日および初回免疫グロブリン(IG)治療開始時病日

患者の初診時病日は第 4 病日が最も多く 25.0 % であり、第 4 病日までに受診した者は 64.3 % であった。2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、第 4 病日までに受診した者は 2 歳未満では 68.4 % を占めていたが、2 歳以上では 60.9 % であり、2 歳以上の年長児の受診が遅れる傾向がみら

れた。

初回 IG の投与開始時病日は第 5 病日が最も多く 34.8 %であった。年齢別にみると、第 5 病日までに投与を開始された者の割合は 2 歳未満では 74.1 %、2 歳以上では 65.2 %であり、2 歳未満で早期に投与を開始する傾向がみられた（表 8）。

12. 免疫グロブリン(IG)治療とステロイド併用

IG 治療を受けた者は 92.6 %（男 92.6 %、女 92.5 %）であり、その割合は高年齢になるほど減っていた。性差はみられなかった（表 9）。

IG 使用者のうち 17.1 %が不応例であった。性別では男、年齢別では、年長児に不応例が多かった（表 10）。

初回 IG 投与時にステロイド併用ありの割合は、11.7 %であり、前回のほぼ 2 倍になった。性差はみられず、年齢別には、年齢が高くなるにつれ併用ありの割合が高くなっていた。診断別にみると、定型例が多く、不全型でやや少なかった。ステロイド併用ありの内容はパルスが 16.7 %、パルス以外が 84.5 %でパルス以外が増加した（1 人の患者に両方使用した例があるため合計は総数を超える）。性差はみられず、年齢別にはパルスは 5-9 歳が少なく、診断別では不定型例が多かった（表 11）。

また、初回 IG は報告施設で投与された者が 98.1 %を占めていた。性別、年齢別にみても同様の割合であった（表 12）。

初回 IG の 1 日あたりの投与量は、1900-2099mg/kg の者が最も多く 93.8 %、次いで 900-1099mg/kg が 4.5 %であった。投与期間は 1 日が最も多く 96.7 %、次いで 2 日 3.2 %であった。初回 IG の 1 日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kg が最も多く 96.0 %、次いで 900-1099mg/kg が 1.9 %、2100mg/kg+が 1.3%、1700-1899mg/kg が 0.6 %であった。前回同様、使用総量 2000mg/kg の大量投与が治療を受けた者の 9 割以上を占めていた（表 13、図 9）。

13. 初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

追加治療（追加 IG 投与）の割合は、初回使用例のうち 19.2 %（再燃時の IG 投与を含む）であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると 2 歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療（ステロイド投与）の割合は初回 IG 使用例の 7.07 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療（infliximab投与）の割合は初回 IG 使用例の 1.01 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上が多かった。診断別では不定型例が多かった。

追加治療（免疫抑制剤投与）の割合は初回 IG 使用例の 0.95 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上がやや多かった。診断別では不定型例がやや多かった。

追加治療（血漿交換）の割合は初回 IG 使用例の 0.51 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上では、2 歳未満が多かった。診断別では定型例が多かった（表 14）。同様に、初回 IG 不応例について追加治療の割合をみた（表 15）。

不応例の追加治療（追加 IG 投与）の割合は、92.6 %であった。性別では男が多かった。2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳未満でやや多かった。診断別では定型例がやや多かった。

追加治療（ステロイド投与）の割合は 32.9 %であった。性別ではやや男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上がやや多かった。診断別では不定型例が多かった。

追加治療（infliximab投与）の割合は 5.6 %であった。性差はなく、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上が多かった。診断別では不定型例が多かった。

追加治療（免疫抑制剤投与）の割合は 5.2 %であった。性別では男が多く、年齢差はなかった。診断別では不定型例が多かった。

追加治療（血漿交換）の割合は 2.7 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳未満が多かった。診断別では定型例が多かった。

14. 検査所見

今回の調査では初診時の H b 値、A L T（G P T）値、血清 N a 値を調べた。

H b 値の分布では年齢が低いほど、H b 値は低値を示す者の割合が高い傾向がみられた。H b

値 9 g/dL未満の低値では男が多かったが、その他の値では、明らかな性差はみられなかった（表 16）。

A L T（G P T）値は、年長児で、50IU/L以上の高い値の割合が高くなっていた。50IU/L以上の割合は女が多かった。6-11 か月以上で 50IU/L以上が多くなっていた（表 17）。

血清 N a 値は 132mEq/L未満の低い値は男が多いが、140mEq/L以上の高値は女がやや多かった。その他の値では、はっきりした性差はみられなかった。136mEq/L未満の低値は 2-4 歳で最も高く、低年齢と 10 歳以上で少なくなっていた（表 18）。

15. 転院

転院ありの割合は全体の 4.4 %で男がやや多く、年齢別では、若年児と年長児が多かった。心障害の有無別では、初診時の異常、急性期の異常、後遺症ともに心障害ありと不明に転院が多かった。診断別では不定形例に転院がやや多かった（表 19）。

Ⅲ. 要約

1. 2 年間の川崎病報告患者数は 31,675 人（2013 年 15,696 人[男 9,044 人、女 6,652 人]、2014 年 15,979 人[男 9,097 人、女 6,882 人]、性比 1.34）であり、2014 年 12 月末までの患者数は、合計 331,115 人（男 191,448 人、女 139,667 人）になった。
2. 0-4 歳人口 10 万対罹患率は、2013 年 302.5（男 340.1、女 262.9）、2014 年 308.0（男 342.2、女 272.0）であった。2014 年の罹患率は、史上最高値となった。
3. 最近 14 年間の月別患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっていた。最近数年間の季節変動を見ると、秋(9-10 月)は少なく、春から夏にかけての増加が観察された。2013 年、2014 年 1 月のピークは史上最高値を示し、秋以外の他の月でも患者数は多くなっていた。
4. 2013 年、2014 年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢 9-11 か月にピーク（人口 10 万対 男 564.4、女 392.0）をもつ、一峰性の山がみられた。罹患率の性比は、月齢 6-8 か月で最も大きく 1.49 であった。
5. 最近 4 年間の都道府県別罹患率の地域差をみると、2013 年、2014 年両年とも罹患率が高いところは、東京、愛知、大分などであった。2013 年の罹患率が高いところは、群馬、富山などで、2014 年の罹患率が高いところは、長野、岐阜、滋賀などであった。全国各地で局地的に患者数の増加があったと考えられる。2011 年に罹患率の高い地域は、群馬、熊本で、2012 年には、隣接する地方に高率地域が拡大した。2013 年には九州地方の高率地域は消失し、関東、近畿、中国、四国の一部の地域が高率になり、2014 年には中国、甲信越地方に高率地域が広がっていた。
6. 診断基準への一致度をみると、定型例 78.5 %（男 78.4 %、女 78.7 %）、不定型例 1.9 %（男 2.1 %、女 1.8 %）、不全型 19.5 %（男 19.5 %、女 19.5 %）であった。
7. 不全型の主要症状の数は 4 つが最も多く 69.0 %、次いで 3 つ 24.6 %、2 つ 5.3 %、1 つ 0.7 %、不明 0.4 %であった。
8. 同胞例ありの割合は報告患者中 1.9 %（男 1.9 %、女 1.9 %）であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは 315 人（男 193 人、女 122 人）報告され、報告患者中 1.0 %（男 1.1 %、女 0.9 %）であった。既往歴を有する両親の内訳は父 146 人、母 163 人、不明 6 人であった。再発例は報告患者中 4.2 %（男 4.4 %、女 3.9 %）であり、前回よりも増加した。死亡例は 2 年間で 8 人（男 6 人、女 2 人）報告され、致命率は 0.03 %であった。初診時年齢は 0-5 か月の若年児が 2 人、6-11 か月が 2 人、1 歳が 3 人、4 歳が 1 人であった。診断はすべて定型例であった。
9. 心障害のうち、初診時異常の割合は 4.2 %であった。種類別の割合は冠動脈の拡大 3.27 %、弁膜病変 0.62 %、瘤 0.39 %、巨大瘤 0.07 %、狭窄 0 %、心筋梗塞 0 %であった。弁膜病変以外はすべて男が高く、瘤の出現率は、2 歳未満で、拡大、弁膜病変の出現率は、2 歳以上で高率にみられた。
10. 心障害のうち、急性期異常の割合は 8.5 %であった。種類別の割合は冠動脈の拡大 6.30 %、弁膜病変 1.16 %、瘤 1.05 %、巨大瘤 0.19 %、狭窄 0.01 %、心筋梗塞 0.01 %であった。弁

膜病変以外すべて男で高かった。巨大瘤、弁膜病変は2歳以上で高率にみられた。

- 1 1. 心後遺症の割合は2.6%であった。種類別の割合は、冠動脈の拡大1.48%、瘤0.81%、弁膜病変0.27%、巨大瘤0.20%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.01%であった。弁膜病変以外すべて男で高かった。瘤、拡大以外は2歳以上で高率にみられた。
- 1 2. 患者の初診時病日は第4病日が最も多く25.0%であり、第4病日までに受診した者は64.3%であった。2歳以上の年長児の受診が遅くなる傾向がみられた。
- 1 3. 初回IGの投与開始時病日は第5病日が最も多く34.8%であった。2歳未満で早期に投与を開始する傾向がみられた。
- 1 4. IG治療を受けた者は92.6%（男92.6%、女92.5%）であり、IG使用者のうち17.1%が不応例であった。男、年長児に不応例が多かった。
- 1 5. IG投与時にステロイドを併用した者の割合は11.7%であり、前回のほぼ2倍になった。性差はみられず、年齢が高くなるにつれ併用ありの割合が高く、不全型でやや少なかった。ステロイド併用ありのうち、パルスが16.7%、パルス以外が84.5%であった。性差はみられず、パルスは5-9歳で少なく、不全型が多かった。
- 1 6. IG1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く93.8%であった。投与期間は1日が最も多く96.7%であり、使用総量2000mg/kgの大量投与がさらに増加した。
- 1 7. 追加治療ではIG追加投与の割合は、初回使用例のうち19.2%（再燃時のIG投与を含む）であった。ステロイド投与7.07%、infliximab投与1.01%、免疫抑制剤投与0.95%、血漿交換0.51%であった。初回IG不応例の追加治療の割合は、追加IG投与92.6%、ステロイド投与32.9%、infliximab投与5.6%、免疫抑制剤投与5.2%、血漿交換2.7%であった。
- 1 8. Hb値の分布では年齢が低いほどHb値は低値を示す者の割合が高い傾向がみられた。Hb値9g/dL未満の低値では男が多かったが、その他の値では、明らかな性差はみられなかった。ALT（GPT）値は年長児で、50IU/L以上の高い値の割合が高くなっていた。50IU/L以上の割合は女で高かった。6-11か月で50IU/L以上が多くなっていた。血清Na値は132mEq/L未満の低い値は男が多かったが、140mEq/L以上の高値は女でやや多かった。
- 1 9. 他院に転院ありは全体の4.4%で男がやや多く、年齢別には、若年児と年長児が多かった。心障害あり、不全型がやや多かった。

謝辞

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究グループとして深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を巻末に付記します。

本報告書は自治医科大学公衆衛生学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dph/kawasaki.html> でも公開しています。

文献

- 1) 小児MCLS研究班（班長：神前章雄）. 小児MCLS全国調査成績，昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造，柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975; 22(6): 306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975; 5(12): 22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976; 34(2): 275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近（1977-78年）におけるMCLS（川崎病）の実態，一第5回全国調査結果の速報一. 小児科 1979; 20(7): 755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCLS（川崎病の多発）一第6回全国調査成績の速報一. 小児科 1981; 22(1): 53-58.

- 7) 川崎病研究班. 最近 (1981年1月-82年6月) におけるMCLS (川崎病) の実態, -第7回全国調査成績の速報-. 小児科 1983; 24(1): 53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985; 26(9): 1049-1053.
- 9) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて (日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京: ソフトサイエンス社, 1986; 37-51.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987; 28(9): 1059-1066.
- 11) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病 (川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京: 南江堂, 1988; 18-31.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990; 31(5): 569-576.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992; 33(3): 309-316.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994; 35(1): 61-73.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996; 37(4): 363-383.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998; 61(3): 406-420.
- 17) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000; 63(1): 121-132.
- 18) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002; 65(2): 332-342.
- 19) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作 (編). 川崎病の疫学-30年間の総括-. 東京: 診断と治療社, 2002.
- 20) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004; 67(2): 313-323.
- 21) 厚生労働省川崎病研究班. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006; 69(2): 281-292.
- 22) 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病疫学像の最近の推移 1989 ~ 2004. 日本小児科学会雑誌. 2007; 111(6): 740-745.
- 23) 厚生労働省川崎病研究班. 第19回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2008; 71(2): 349-360.
- 24) 川崎病全国調査担当グループ (特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第20回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2010; 73(1): 143-156.
- 25) 川崎病全国調査担当グループ (特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第21回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2012; 75(3): 507-523.
- 26) 川崎病全国調査担当グループ (特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第22回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2014; 77(2): 271-290.
- 27) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974; 54: 271-276.
- 28) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987; 80: 58-62.
- 29) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988; 158(6): 1296-1301.
- 30) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995; 95(4): 475-479.
- 31) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995; 149: 779-783.
- 32) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. J Epidemiol 1996; 6(3): 148-157.
- 33) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. Pediatrics 1998; 102(6): e65.
- 34) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. Pediatrics 2001; 107(3): e33.
- 35) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan: Results from Nationwide Survey in 2005-2006. J Epidemiol 2008; 18(4): 167-172.

- 3 6) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Monthly observation of the numbers of patients and incidence rates of Kawasaki disease in Japan: results from nationwide surveys. J Epidemiol 2008; 18(6): 273-279.
- 3 7) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Chihara I, Aoyama Y, Kotani K, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2007-2008 nationwide survey. J Epidemiol 2010; 20(4): 302-307.
- 3 8) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Tsuboi S, Aoyama Y, Kotani K, Tsogzolbaatar EO, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2009-2010 nationwide survey. J Epidemiol 2012; 22(2): 216-221.
- 3 9) Makino N, Nakamura Y, Yashiro M, Ae R, Tsuboi S, Aoyama Y, Kojo K, Uehara R, Kotani K, Yanagawa H: Descriptive epidemiology of Kawasaki disease in Japan, 2011-2012: from the results of the 22nd nationwide survey. J epidemiol 2015; 25 (3) :239-245.

文献 32 と 35-39 は Journal of Epidemiology のサイト (<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/>) で、
文献 33 と 34 は Pediatrics のサイト (<http://www.pediatrics.org/cgi/content/>) で読むことができます。

[表1]性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患 者 数			0-4歳10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0(-)
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	175.9	198.3	152.4	4(0.04)
2005	10,041	5,868	4,173	181.0	206.5	154.2	1(0.01)
2006	10,434	6,024	4,410	191.4	215.8	165.9	1(0.01)
2007	11,581	6,684	4,897	215.3	242.6	186.6	2(0.02)
2008	11,756	6,839	4,917	219.9	249.6	188.5	4(0.03)
2009	10,975	6,249	4,726	206.2	229.0	182.2	0(-)
2010	12,755	7,266	5,489	242.8	270.2	214.0	1(0.01)
2011	12,774	7,406	5,368	243.1	275.2	209.4	1(0.01)
2012	13,917	8,036	5,881	266.4	300.4	230.7	3(0.02)
2013	15,696	9,044	6,652	302.5	340.1	262.9	1(0.01)
2014	15,979	9,097	6,882	308.0	342.2	272.0	7(0.04)
計	331,115	191,448	139,667	—	—	—	448(0.14)

*: 罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2014年は2013年の推計人口)を用いた。前回調査の2012年は2011年の人口を用いたので今回2012年の人口で修正した。

[表2]年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2013年				2014年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	31,675	305.3	18,141	13,534	15,696	302.5	9,044	6,652	15,979	308.0	9,097	6,882
0-2か月	482	93.5	281	201	227	88.1	132	95	255	98.9	149	106
3-5か月	1,534	297.6	930	604	826	320.5	495	331	708	274.7	435	273
6-8か月	2,087	404.8	1,273	814	1,073	416.3	668	405	1,014	393.4	605	409
9-11か月	2,476	480.3	1,490	986	1,201	466.0	725	476	1,275	494.7	765	510
12-14か月	2,068	401.2	1,229	839	1,046	405.8	603	443	1,022	396.5	626	396
15-17か月	1,999	387.8	1,175	824	1,000	388.0	593	407	999	387.6	582	417
18-20か月	1,892	367.0	1,093	799	949	368.2	536	413	943	365.9	557	386
21-23か月	1,755	340.4	992	763	861	334.0	508	353	894	346.8	484	410
2歳-2歳5か月	3,069	290.1	1,735	1,334	1,485	280.7	860	625	1,584	299.4	875	709
2歳6か月-2歳11か月	2,763	261.2	1,525	1,238	1,332	251.8	749	583	1,431	270.5	776	655
3歳-3歳5か月	2,275	220.0	1,226	1,049	1,143	221.1	622	521	1,132	219.0	604	528
3歳6か月-3歳11か月	1,955	189.1	1,078	877	931	180.1	510	421	1,024	198.1	568	456
4歳	3,080	148.9	1,683	1,397	1,513	146.3	816	697	1,567	151.5	867	700
5歳	1,870	87.9	1,019	851	954	89.7	521	433	916	86.1	498	418
6歳	968	45.5	566	402	472	44.4	276	196	496	46.6	290	206
7歳	563	26.8	322	241	287	27.0	169	118	276	25.9	153	123
8歳	313	14.7	185	128	146	13.7	95	51	167	15.7	90	77
9歳	200	9.4	120	80	94	8.8	58	36	106	10.0	62	44
10歳以上	326	2.8	219	107	156	2.7	108	48	170	3.0	111	59

*罹患率の計算には2013年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

**総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3] 患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2011年				2012年				2013年				2014年			
	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	12,774	7,406	5,368	243.1	13,917	8,036	5,881	266.4	15,696	9,044	6,652	302.5	15,979	9,097	6,882	308.0
1:北海道	427	246	181	212.4	417	243	174	207.5	587	334	253	298.0	600	326	274	304.6
2:青森	104	51	53	212.2	122	67	55	249.0	145	77	68	308.5	144	76	68	306.4
3:岩手	87	55	32	177.6	78	40	38	159.2	95	53	42	202.1	114	65	49	242.6
4:宮城	156	93	63	164.2	175	104	71	184.2	253	151	102	269.1	257	150	107	273.4
5:秋田	76	45	31	217.1	79	42	37	225.7	93	48	45	281.8	113	67	46	342.4
6:山形	128	69	59	290.9	129	79	50	293.2	138	74	64	320.9	134	74	60	311.6
7:福島	195	104	91	256.6	217	126	91	285.5	204	128	76	283.3	225	131	94	312.5
8:茨城	286	181	105	232.5	344	198	146	279.7	329	175	154	281.2	331	189	142	282.9
9:栃木	201	105	96	242.2	244	147	97	294.0	241	144	97	297.5	242	140	102	298.8
10:群馬	272	162	110	331.7	271	138	133	330.5	293	170	123	375.6	213	112	101	273.1
11:埼玉	630	358	272	208.6	723	421	302	239.4	952	543	409	321.6	1,006	590	416	339.9
12:千葉	673	402	271	259.8	761	465	296	293.8	872	531	341	348.8	814	474	340	325.6
13:東京	1,317	745	572	255.2	1,390	821	569	269.4	1,802	1,026	776	344.6	1,780	1,000	780	340.3
14:神奈川	937	563	374	242.7	1,088	614	474	281.9	1,250	735	515	329.8	1,154	649	505	304.5
15:新潟	227	127	100	249.5	288	166	122	316.5	229	137	92	260.2	306	187	119	347.7
16:富山	81	51	30	192.9	124	61	63	295.2	145	82	63	362.5	117	71	46	292.5
17:石川	122	67	55	249.0	117	62	55	238.8	124	74	50	258.3	166	90	76	345.8
18:福井	106	60	46	302.9	99	66	33	282.9	98	63	35	288.2	122	70	52	358.8
19:山梨	58	27	31	170.6	60	38	22	176.5	101	42	59	315.6	69	39	30	215.6
20:長野	246	139	107	279.5	252	134	118	286.4	253	141	112	297.6	358	204	154	421.2
21:岐阜	222	127	95	255.2	233	125	108	267.8	237	133	104	278.8	325	180	145	382.4
22:静岡	338	202	136	211.2	314	183	131	196.2	344	197	147	221.9	348	198	150	224.5
23:愛知	840	495	345	243.5	971	573	398	281.4	1,131	651	480	334.6	1,125	624	501	332.8
24:三重	191	116	75	244.9	182	105	77	233.3	196	104	92	261.3	225	130	95	300.0
25:滋賀	164	102	62	241.2	170	95	75	250.0	190	106	84	283.6	241	152	89	359.7
26:京都	270	164	106	254.7	284	158	126	267.9	349	196	153	342.2	294	164	130	288.2
27:大阪	881	518	363	237.5	985	593	392	265.5	1,101	651	450	303.3	1,082	624	458	298.1
28:兵庫	600	346	254	249.0	620	360	260	257.3	799	453	346	338.6	758	441	317	321.2
29:奈良	123	61	62	223.6	136	73	63	247.3	179	102	77	331.5	177	97	80	327.8
30:和歌山	114	56	58	300.0	113	65	48	297.4	112	63	49	302.7	111	67	44	300.0
31:鳥取	54	28	26	225.0	40	25	15	166.7	53	31	22	220.8	42	21	21	175.0
32:島根	73	40	33	251.7	72	38	34	248.3	66	37	29	235.7	66	33	33	235.7
33:岡山	174	97	77	207.1	182	98	84	216.7	241	126	115	293.9	264	158	106	322.0
34:広島	332	196	136	261.4	359	206	153	282.7	333	208	125	264.3	435	254	181	345.2
35:山口	141	74	67	247.4	159	93	66	278.9	144	86	58	257.1	139	85	54	248.2
36:徳島	70	39	31	233.3	73	44	29	243.3	91	44	47	313.8	90	53	37	310.3
37:香川	111	67	44	264.3	112	77	35	266.7	106	60	46	258.5	115	66	49	280.5
38:愛媛	106	62	44	182.8	100	65	35	172.4	98	57	41	175.0	153	84	69	273.2
39:高知	62	39	23	221.4	64	35	29	228.6	87	48	39	322.2	82	51	31	303.7
40:福岡	550	320	230	237.1	572	319	253	246.6	547	342	205	236.8	578	319	259	250.2
41:佐賀	68	45	23	174.4	66	35	31	169.2	75	41	34	197.4	74	44	30	194.7
42:長崎	146	86	60	243.3	140	75	65	233.3	152	87	65	257.6	127	71	56	215.3
43:熊本	276	164	112	340.7	251	143	108	309.9	246	145	101	303.7	204	118	86	251.9
44:大分	145	88	57	290.0	174	92	82	348.0	174	106	68	355.1	159	84	75	324.5
45:宮崎	70	42	28	137.3	111	65	46	217.6	81	42	39	162.0	115	58	57	230.0
46:鹿児島	183	109	74	240.8	276	168	108	363.2	167	88	79	222.7	191	110	81	254.7
47:沖縄	139	71	68	163.5	180	96	84	211.8	127	71	56	149.4	145	85	60	170.6
48:国外	2	2	0	—	0	0	0	—	2	1	1	—	1	1	0	—
不明									64	40	24	—	48	21	27	—

*都道府県別罹患率は2011-2012年は2012年住民基本台帳人口、2013-2014年は2014年住民基本台帳人口を用いて計算した。

**全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2014年は2013年の推計人口を使用)。

[表4]性別、年齢別、診断の確実度

		総数 (%)		定型例 (%)		不定型例 (%)		不全型 (%)	
総数		31,675	(100)	24,872	(78.5)	612	(1.9)	6,185	(19.5)
性別	男	18,141	(100)	14,222	(78.4)	375	(2.1)	3,540	(19.5)
	女	13,534	(100)	10,650	(78.7)	237	(1.8)	2,645	(19.5)
年齢別	0-5か月	2,016	(100)	1,423	(70.6)	73	(3.6)	520	(25.8)
	6-11か月	4,563	(100)	3,191	(69.9)	109	(2.4)	1,262	(27.7)
	1歳	7,714	(100)	6,043	(78.3)	147	(1.9)	1,522	(19.7)
	2歳	5,832	(100)	4,909	(84.2)	85	(1.5)	838	(14.4)
	3歳	4,230	(100)	3,554	(84.0)	61	(1.4)	613	(14.5)
	4歳	3,080	(100)	2,529	(82.1)	53	(1.7)	497	(16.1)
	5歳	1,870	(100)	1,482	(79.3)	31	(1.7)	357	(19.1)
	6歳	968	(100)	741	(76.5)	17	(1.8)	210	(21.7)
	7歳	563	(100)	422	(75.0)	16	(2.8)	125	(22.2)
	8歳	313	(100)	214	(68.4)	7	(2.2)	92	(29.4)
	9歳	200	(100)	135	(67.5)	4	(2.0)	61	(30.5)
	10歳以上	326	(100)	229	(70.2)	9	(2.8)	88	(27.0)

「診断の確実度」不明6人は表から除いたので合計は100%にならない。

[表5]性別、年齢別、不全型の主要症状の数

		患者数 (不全型) (%)		主要症状の数(%)									
				1個		2個		3個		4個		不明*	
総数		6,185	(100)	45	(0.7)	327	(5.3)	1,521	(24.6)	4,267	(69.0)	25	(0.4)
性別	男	3,540	(100)	24	(0.7)	184	(5.2)	902	(25.5)	2,418	(68.3)	12	(0.3)
	女	2,645	(100)	21	(0.8)	143	(5.4)	619	(23.4)	1,849	(69.9)	13	(0.5)
年齢別	0－5か月	520	(100)	8	(1.5)	33	(6.3)	129	(24.8)	349	(67.1)	1	(0.2)
	6－11か月	1,262	(100)	16	(1.3)	91	(7.2)	366	(29.0)	783	(62.0)	6	(0.5)
	1歳	1,522	(100)	11	(0.7)	73	(4.8)	375	(24.6)	1,054	(69.3)	9	(0.6)
	2歳	838	(100)	3	(0.4)	36	(4.3)	177	(21.1)	620	(74.0)	2	(0.2)
	3歳	613	(100)	2	(0.3)	21	(3.4)	124	(20.2)	465	(75.9)	1	(0.2)
	4歳	497	(100)	1	(0.2)	27	(5.4)	96	(19.3)	371	(74.6)	2	(0.4)
	5歳	357	(100)	1	(0.3)	15	(4.2)	104	(29.1)	234	(65.5)	3	(0.8)
	6歳	210	(100)	0	—	14	(6.7)	55	(26.2)	140	(66.7)	1	(0.5)
	7歳	125	(100)	2	(1.6)	4	(3.2)	41	(32.8)	78	(62.4)	0	—
	8歳	92	(100)	0	—	5	(5.4)	18	(19.6)	69	(75.0)	0	—
	9歳	61	(100)	0	—	4	(6.6)	15	(24.6)	42	(68.9)	0	—
	10歳以上	88	(100)	1	(1.1)	4	(4.5)	21	(23.9)	62	(70.5)	0	—

*主要症状の数0個(3人)は不明とした。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表6]性別、初診時年齢別、診断別、死亡例の割合

総 数		総 数	死亡例	(%)
		31,675	8	0.03
性別	男	18,141	6	0.03
	女	13,534	2	0.01
初診時 年齢別	0－5か月	2,016	2	0.10
	6－11か月	4,563	2	0.04
	1歳	7,714	3	0.04
	4歳	3,080	1	0.03
診断別	定型例	24,872	8	0.03
	不定型例	612	0	—
	不全型	6,185	0	—

[表7]種類別、性別、年齢別心障害の出現率

			総 数 (%)	巨大瘤 (%)	瘤 (%)	拡大 (%)	狭窄 (%)	心筋梗塞 (%)	弁膜病変 (%)
初診時の異常	総 数		31,675 (100)	21 (0.07)	123 (0.39)	1,036 (3.27)	0 —	0 —	196 (0.62)
	性別	男	18,141 (100)	13 (0.07)	88 (0.49)	685 (3.78)	0 —	0 —	108 (0.60)
		女	13,534 (100)	8 (0.06)	35 (0.26)	351 (2.59)	0 —	0 —	88 (0.65)
	年齢別	2歳未満	14,293 (100)	11 (0.08)	70 (0.49)	429 (3.00)	0 —	0 —	78 (0.55)
		2歳以上	17,382 (100)	10 (0.06)	53 (0.30)	607 (3.49)	0 —	0 —	118 (0.68)
急性期の異常	総 数		31,675 (100)	59 (0.19)	334 (1.05)	1,997 (6.30)	4 (0.01)	3 (0.01)	368 (1.16)
	性別	男	18,141 (100)	41 (0.23)	238 (1.31)	1,341 (7.39)	3 (0.02)	2 (0.01)	200 (1.10)
		女	13,534 (100)	18 (0.13)	96 (0.71)	656 (4.85)	1 (0.01)	1 (0.01)	168 (1.24)
	年齢別	2歳未満	14,293 (100)	20 (0.14)	184 (1.29)	916 (6.41)	2 (0.01)	2 (0.01)	149 (1.04)
		2歳以上	17,382 (100)	39 (0.22)	150 (0.86)	1,081 (6.22)	2 (0.01)	1 (0.01)	219 (1.26)
後遺症	総 数		31,675 (100)	63 (0.20)	258 (0.81)	470 (1.48)	8 (0.03)	2 (0.01)	86 (0.27)
	性別	男	18,141 (100)	44 (0.24)	189 (1.04)	339 (1.87)	5 (0.03)	2 (0.01)	47 (0.26)
		女	13,534 (100)	19 (0.14)	69 (0.51)	131 (0.97)	3 (0.02)	0 —	39 (0.29)
	年齢別	2歳未満	14,293 (100)	20 (0.14)	135 (0.94)	262 (1.83)	3 (0.02)	2 (0.01)	32 (0.22)
		2歳以上	17,382 (100)	43 (0.25)	123 (0.71)	208 (1.20)	5 (0.03)	0 —	54 (0.31)

[表8] 年齢別、初診時および初回免疫グロブリン(IG)投与開始時病日の分布

		総数 (%)		2歳未満 (%)		2歳以上 (%)	
初診時病日 *	総 数	31,672	(100)	14,293	(100)	17,382	(100)
	第 1 病日	1,299	(4.1)	799	(5.6)	500	(2.9)
	第 2 病日	4,290	(13.5)	2,344	(16.4)	1,946	(11.2)
	第 3 病日	6,853	(21.6)	3,194	(22.3)	3,659	(21.1)
	第 4 病日	7,919	(25.0)	3,445	(24.1)	4,474	(25.7)
	第 5 病日	6,093	(19.2)	2,516	(17.6)	3,577	(20.6)
	第 6 病日	2,863	(9.0)	1,109	(7.8)	1,754	(10.1)
	第 7 病日	1,247	(3.9)	472	(3.3)	775	(4.5)
	第 8 病日	528	(1.7)	177	(1.2)	351	(2.0)
	第 9 病日	239	(0.8)	97	(0.7)	142	(0.8)
	第10病日以上	341	(1.1)	140	(1.0)	204	(1.2)
IG 投与開始時病日 **	総 数	29,288	(100)	13,124	(100)	16,164	(100)
	第 1 病日	27	(0.1)	16	(0.1)	11	(0.1)
	第 2 病日	460	(1.6)	301	(2.3)	159	(1.0)
	第 3 病日	2,429	(8.3)	1,424	(10.9)	1005	(6.2)
	第 4 病日	7,152	(24.4)	3,511	(26.8)	3641	(22.5)
	第 5 病日	10,199	(34.8)	4,472	(34.1)	5727	(35.4)
	第 6 病日	5,104	(17.4)	1,959	(14.9)	3145	(19.5)
	第 7 病日	2,297	(7.8)	820	(6.2)	1477	(9.1)
	第 8 病日	882	(3.0)	306	(2.3)	576	(3.6)
	第 9 病日	363	(1.2)	137	(1.0)	226	(1.4)
	第10病日以上	375	(1.3)	178	(1.4)	197	(1.2)

*初診時病日不明(入院中含む)3人を除く31,672人を集計した。

**初回IG使用例 29,322人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明 34人を除く 29,288人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表9]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用の割合

		総数(%)		初回IG 使用なし(%)		初回IG 使用あり(%)	
総数		31,675	(100)	2,353	(7.4)	29,322	(92.6)
性別	男	18,141	(100)	1,344	(7.4)	16,797	(92.6)
	女	13,534	(100)	1,009	(7.5)	12,525	(92.5)
年齢別	0-5か月	2,016	(100)	137	(6.8)	1,879	(93.2)
	6-11か月	4,563	(100)	395	(8.7)	4,168	(91.3)
	1歳	7,714	(100)	619	(8.0)	7,095	(92.0)
	2歳	5,832	(100)	352	(6.0)	5,480	(94.0)
	3歳	4,230	(100)	263	(6.2)	3,967	(93.8)
	4歳	3,080	(100)	201	(6.5)	2,879	(93.5)
	5歳	1,870	(100)	153	(8.2)	1,717	(91.8)
	6歳	968	(100)	83	(8.6)	885	(91.4)
	7歳	563	(100)	45	(8.0)	518	(92.0)
	8歳	313	(100)	37	(11.8)	276	(88.2)
	9歳	200	(100)	25	(12.5)	175	(87.5)
	10歳以上	326	(100)	43	(13.2)	283	(86.8)

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表10]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用ありの内訳

		初回IG 使用あり(%)		初回IG使用あり (不応例でない)(%)		初回IG使用あり (不応例)(%)	
総数*		29,322	(100)	24,298	(82.9)	5,024	(17.1)
性別	男	16,797	(100)	13,733	(81.8)	3,064	(18.2)
	女	12,525	(100)	10,565	(84.4)	1,960	(15.6)
年齢別	0-5か月	1,879	(100)	1,540	(82.0)	339	(18.0)
	6-11か月	4,168	(100)	3,616	(86.8)	552	(13.2)
	1歳	7,095	(100)	5,949	(83.8)	1,146	(16.2)
	2歳	5,480	(100)	4,488	(81.9)	992	(18.1)
	3歳	3,967	(100)	3,205	(80.8)	762	(19.2)
	4歳	2,879	(100)	2,393	(83.1)	486	(16.9)
	5歳	1,717	(100)	1,383	(80.5)	334	(19.5)
	6歳	885	(100)	709	(80.1)	176	(19.9)
	7歳	518	(100)	415	(80.1)	103	(19.9)
	8歳	276	(100)	223	(80.8)	53	(19.2)
	9歳	175	(100)	148	(84.6)	27	(15.4)
	10歳以上	283	(100)	229	(80.9)	54	(19.1)

*初回IG使用例 29,322人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表11] 性別、年齢別、診断別、ステロイド併用の割合

		初回(IG)使用例(%)		ステロイド併用あり(%)			パルス(%)			パルス以外(%)		
総数*		29,322	(100)	3,425	(11.7)	[100]	572	(2.0)	[16.7]	2,893	(9.9)	[84.5]
性別	男	16,797	(100)	1,964	(11.7)	[100]	328	(2.0)	[16.7]	1,656	(9.9)	[84.3]
	女	12,525	(100)	1,461	(11.7)	[100]	244	(1.9)	[16.7]	1,237	(9.9)	[84.7]
年齢別	0-5か月	1,879	(100)	185	(9.8)	[100]	32	(1.7)	[17.3]	157	(8.4)	[84.9]
	6-11か月	4,168	(100)	405	(9.7)	[100]	62	(1.5)	[15.3]	344	(8.3)	[84.9]
	1歳	7,095	(100)	627	(8.8)	[100]	118	(1.7)	[18.8]	518	(7.3)	[82.6]
	2歳-4歳	12,326	(100)	1,612	(13.1)	[100]	271	(2.2)	[16.8]	1,361	(11.0)	[84.4]
	5歳-9歳	3,571	(100)	548	(15.3)	[100]	78	(2.2)	[14.2]	475	(13.3)	[86.7]
	10歳以上	283	(100)	48	(17.0)	[100]	11	(3.9)	[22.9]	38	(13.4)	[79.2]
診断別**	定型例	24,017	(100)	2,936	(12.2)	[100]	475	(2.0)	[16.2]	2,497	(10.4)	[85.0]
	不定型例	550	(100)	52	(9.5)	[100]	20	(3.6)	[38.5]	35	(6.4)	[67.3]
	不全型	4,754	(100)	437	(9.2)	[100]	77	(1.6)	[17.6]	361	(7.6)	[82.6]

*()内は初回IG使用例 29,322人を集計した。

**初回IG使用例 29,322人のうち診断不明 1人は除いた。

*[]内はステロイド併用あり 3,425人を集計した。1人の患者に両方用いている例があるため、横の合計は総数を超えることがある。両方なし(不明) 10人も総数に含まれている。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表12] 性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)投与医療機関の内訳

		総数(%)		報告施設で投与(%)		前医で投与(%)		その他・不明(%)	
総数*		29,321	(100)	28,750	(98.1)	315	(1.1)	256	(0.9)
性別	男	16,797	(100)	16,475	(98.1)	193	(1.1)	129	(0.8)
	女	12,524	(100)	12,275	(98.0)	122	(1.0)	127	(1.0)
年齢別	0-5か月	1,879	(100)	1,829	(97.3)	25	(1.3)	25	(1.3)
	6-11か月	4,168	(100)	4,100	(98.4)	31	(0.7)	37	(0.9)
	1歳	7,095	(100)	6,962	(98.1)	66	(0.9)	67	(0.9)
	2歳	5,479	(100)	5,384	(98.3)	53	(1.0)	42	(0.8)
	3歳	3,967	(100)	3,892	(98.1)	49	(1.2)	26	(0.7)
	4歳	2,879	(100)	2,806	(97.5)	44	(1.5)	29	(1.0)
	5歳	1,717	(100)	1,679	(97.8)	23	(1.3)	15	(0.9)
	6歳	885	(100)	865	(97.7)	15	(1.7)	5	(0.6)
	7歳	518	(100)	512	(98.8)	5	(1.0)	1	(0.2)
	8歳	276	(100)	273	(98.9)	2	(0.7)	1	(0.4)
	9歳	175	(100)	173	(98.9)	0	-	2	(1.1)
	10歳以上	283	(100)	275	(97.2)	2	(0.7)	6	(2.1)

*初回IG使用例 29,322人のうち1日投与量、投与日数不明 1人を除く 29,321人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表13]初回免疫グロブリン(IG)1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数および%		1日	2日	3日	4日以上
総 数*		29,321 (100)	[100]	28,351 (96.69)	928 (3.16)	6 (0.02)	36 (0.12)
—299mg/kg		10	[0.03]	1	0	0	9
300—499mg/kg		23	[0.08]	2	0	0	21
500—699mg/kg		5	[0.02]	0	3	0	2
700—899mg/kg		16	[0.05]	7	5	0	4
900—1099mg/kg		1,310	[4.47]	538	771	1	0
1100—1299mg/kg		57	[0.19]	42	15	0	0
1300—1499mg/kg		17	[0.06]	11	6	0	0
1500—1699mg/kg		23	[0.08]	20	3	0	0
1700—1899mg/kg		152	[0.56]	151	1	0	0
1900—2099mg/kg		27,494	[93.77]	27,367	122	5	0
2100mg/kg+		214	[0.73]	212	2	0	0
再 掲	200mg/kg	9	[0.03]	0	0	0	9
	400mg/kg	22	[0.08]	1	0	0	21
	1000mg/kg	1,238	[4.22]	519	718	1	0
	2000mg/kg	26,854	[91.59]	26,734	115	5	0
	その他	1,198	[4.09]	1,097	95	0	6

*初回IG使用例 29,322人のうち1日投与量、投与日数不明 1人を除く 29,321人を集計した。
()内は横向きのを示す。

[表14] 性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

		総数 (%)	初回IG追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	infliximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		29,322 (100)	5,619 (19.16)	2,072 (7.07)	297 (1.01)	280 (0.95)	149 (0.51)
性別	男	16,797 (100)	3,423 (20.38)	1,282 (7.63)	180 (1.07)	175 (1.04)	105 (0.63)
	女	12,525 (100)	2,196 (17.53)	790 (6.31)	117 (0.93)	105 (0.84)	44 (0.35)
年齢別	2歳未満	13,142 (100)	2,352 (17.90)	784 (5.97)	99 (0.75)	116 (0.88)	71 (0.54)
	2歳以上	16,180 (100)	3,267 (20.19)	1,288 (7.96)	198 (1.22)	164 (1.01)	78 (0.48)
診断別**	定型例	24,017 (100)	4,960 (20.65)	1,822 (7.59)	270 (1.12)	242 (1.01)	139 (0.58)
	不定型例	550 (100)	93 (16.91)	37 (6.73)	7 (1.27)	12 (2.18)	2 (0.36)
	不全型	4,754 (100)	566 (11.91)	213 (4.48)	20 (0.42)	26 (0.55)	8 (0.17)

*初回IG使用例 29,322人を集計した。

**初回IG使用例 29,322人のうち診断不明 1人は除いた。

1人の患者に複数の治療法を用いている例がある。

[表15] 性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法(初回IG不応例)

		総数 (%)	初回IG追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	infliximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		5,024 (100)	4,654 (92.6)	1,651 (32.9)	283 (5.6)	262 (5.2)	136 (2.7)
性別	男	3,064 (100)	2,796 (91.3)	1,043 (34.0)	172 (5.6)	164 (5.4)	97 (3.2)
	女	1,960 (100)	1,768 (90.2)	608 (31.0)	111 (5.7)	98 (5.0)	39 (2.0)
年齢別	2歳未満	2,037 (100)	1,889 (92.7)	625 (30.7)	91 (4.5)	107 (5.3)	65 (3.2)
	2歳以上	2,987 (100)	2,675 (89.6)	1,026 (34.3)	192 (6.4)	155 (5.2)	71 (2.4)
診断別	定型例	4,413 (100)	4,058 (92.0)	1,469 (33.3)	261 (5.9)	231 (5.2)	126 (2.9)
	不定型例	80 (100)	67 (83.8)	28 (35.0)	5 (6.3)	9 (11.3)	2 (2.5)
	不全型	531 (100)	439 (82.7)	154 (29.0)	17 (3.2)	22 (4.1)	8 (1.5)

*初回IG使用例 29,322人のうち不応例 5,024人を集計した。

[表16]性別、年齢別、初診時Hb値の割合

		総数(%)		<9	9-	10-	11-	12-	13-	14-
総数*		31,441	(100)	492	1,805	6,827	11,887	7,888	2,139	403
				(1.6)	(5.7)	(21.7)	(37.8)	(25.1)	(6.8)	(1.3)
性別	男	17,998	(100)	357	1,110	3,852	6,662	4,535	1,244	238
	女			135	695	2,975	5,225	3,353	895	165
年齢別	0-5か月	1,998	(100)	51	256	678	687	268	45	13
				(2.6)	(12.8)	(33.9)	(34.4)	(13.4)	(2.3)	(0.7)
	6-11か月	4,524	(100)	215	601	1,536	1,521	535	103	13
				(4.8)	(13.3)	(34.0)	(33.6)	(11.8)	(2.3)	(0.3)
	1歳	7,666	(100)	200	664	2,287	2,863	1,400	220	32
				(2.6)	(8.7)	(29.8)	(37.3)	(18.3)	(2.9)	(0.4)
	2歳-4歳	13,046	(100)	22	251	2,103	5,684	3,995	892	99
				(0.2)	(1.9)	(16.1)	(43.6)	(30.6)	(6.8)	(0.8)
	5歳-9歳	3,884	(100)	3	32	218	1,096	1,602	765	168
				(0.1)	(0.8)	(5.6)	(28.2)	(41.2)	(19.7)	(4.3)
	10歳以上	323	(100)	1	1	5	36	88	114	78
				(0.3)	(0.3)	(1.5)	(11.1)	(27.2)	(35.3)	(24.1)

*検査値あり 31,441人を集計した。

単位:g/dL

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表17]性別、年齢別、初診時ALT(GPT)値の割合

		総数(%)		<10	10-	20-	50-	100-	200-
総数*		31,508	(100)	2,988	11,429	7,220	3,072	2,948	3,851
				(9.5)	(36.3)	(22.9)	(9.7)	(9.4)	(12.2)
性別	男	18,044	(100)	1,557	6,804	4,222	1,669	1,626	2,166
	女			1,431	4,625	2,998	1,403	1,322	1,685
年齢別	0-5か月	2,005	(100)	48	745	963	163	58	28
				(2.4)	(37.2)	(48.0)	(8.1)	(2.9)	(1.4)
	6-11か月	4,539	(100)	84	1,386	1,537	645	526	361
				(1.9)	(30.5)	(33.9)	(14.2)	(11.6)	(8.0)
	1歳	7,678	(100)	455	2,829	1,642	837	875	1,040
				(5.9)	(36.8)	(21.4)	(10.9)	(11.4)	(13.5)
	2歳-4歳	13,075	(100)	1,763	4,823	2,277	1,117	1,186	1,909
				(13.5)	(36.9)	(17.4)	(8.5)	(9.1)	(14.6)
	5歳-9歳	3,887	(100)	609	1,542	715	271	266	484
				(15.7)	(39.7)	(18.4)	(7.0)	(6.8)	(12.5)
	10歳以上	324	(100)	29	104	86	39	37	29
				(9.0)	(32.1)	(26.5)	(12.0)	(11.4)	(9.0)

*検査値あり 31,508人を集計した。

単位:IU/L

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表18]性別、年齢別、初診時血清Na値の割合

		総数(%)		<132	132-	134-	136-	138-	140-
総数*		31,432	(100)	4,182 (13.3)	5,953 (18.9)	8,722 (27.7)	7,486 (23.8)	3,765 (12.0)	1,324 (4.2)
性別	男	17,993	(100)	2,543 (14.1)	3,482 (19.4)	5,031 (28.0)	4,151 (23.1)	2,086 (11.6)	700 (3.9)
	女	13,439	(100)	1,639 (12.2)	2,471 (18.4)	3,691 (27.5)	3,335 (24.8)	1,679 (12.5)	624 (4.6)
年齢別	0-5か月	2,004	(100)	118 (5.9)	319 (15.9)	575 (28.7)	639 (31.9)	284 (14.2)	69 (3.4)
	6-11か月	4,533	(100)	320 (7.1)	777 (17.1)	1,382 (30.5)	1,290 (28.5)	606 (13.4)	158 (3.5)
	1歳	7,656	(100)	929 (12.1)	1,483 (19.4)	2,218 (29.0)	1,797 (23.5)	901 (11.8)	328 (4.3)
	2歳-4歳	13,042	(100)	2,186 (16.8)	2,547 (19.5)	3,464 (26.6)	2,840 (21.8)	1,445 (11.1)	560 (4.3)
	5歳-9歳	3,875	(100)	576 (14.9)	772 (19.9)	1,018 (26.3)	840 (21.7)	475 (12.3)	194 (5.0)
	10歳以上	322	(100)	53 (16.5)	55 (17.1)	65 (20.2)	80 (24.8)	54 (16.8)	15 (4.7)

*検査値あり 31,432人を集計した。

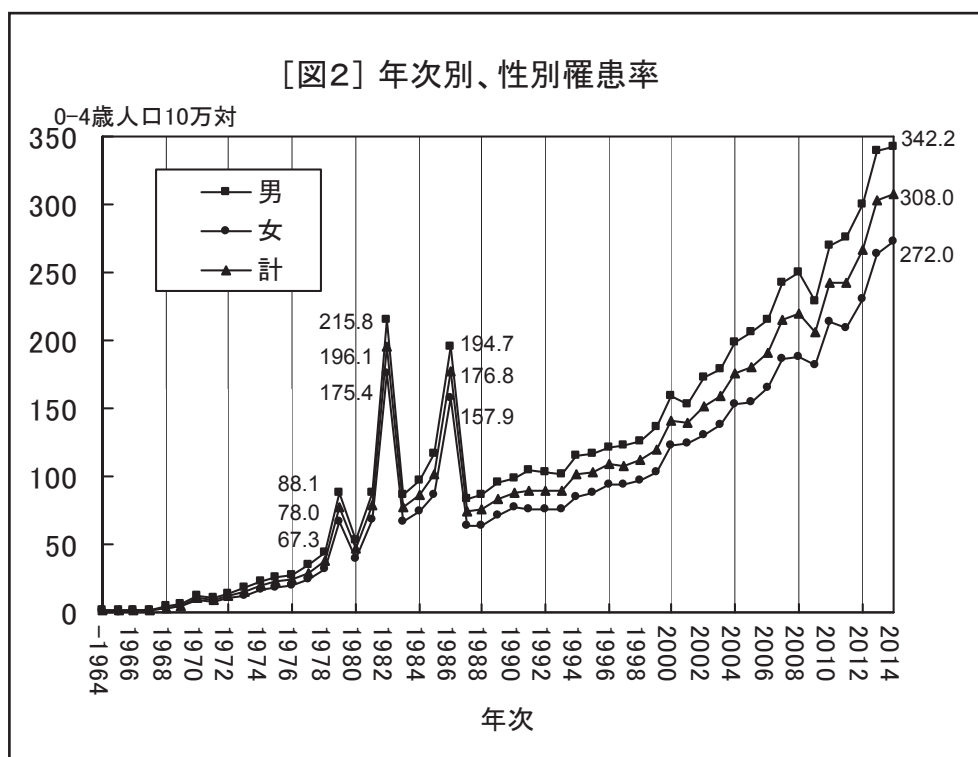
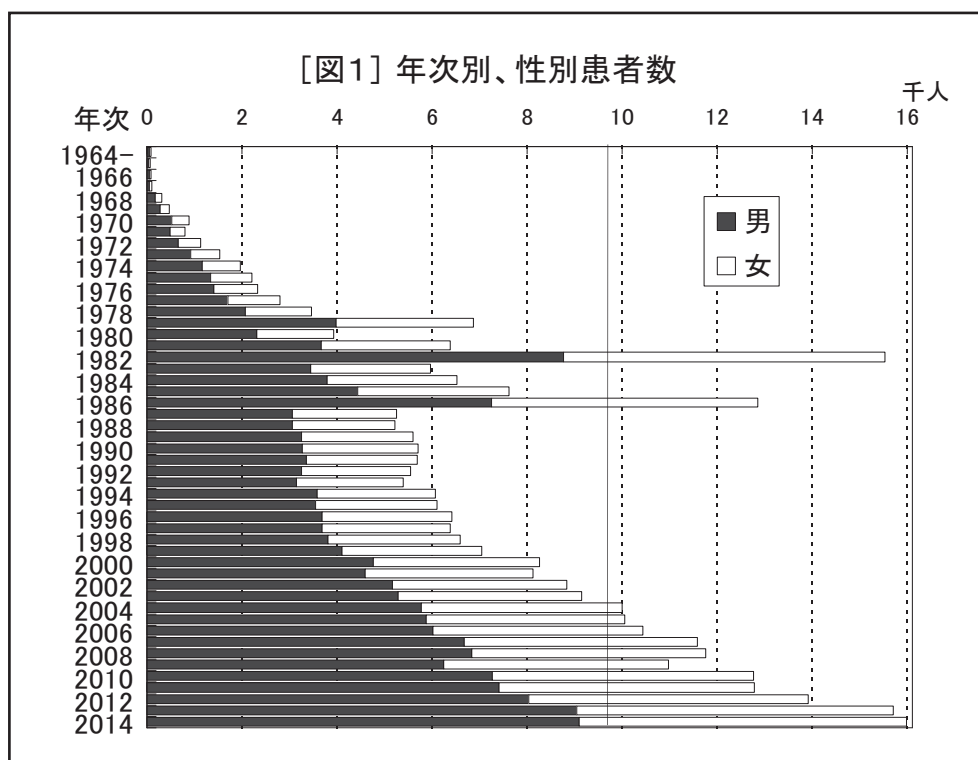
単位mEq/L

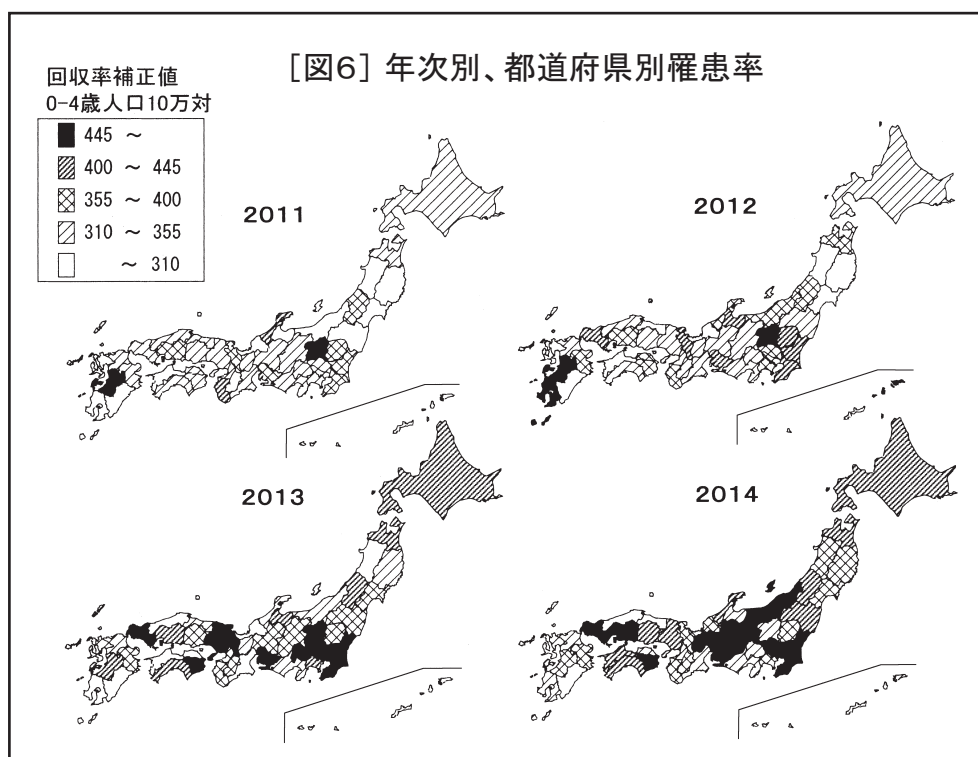
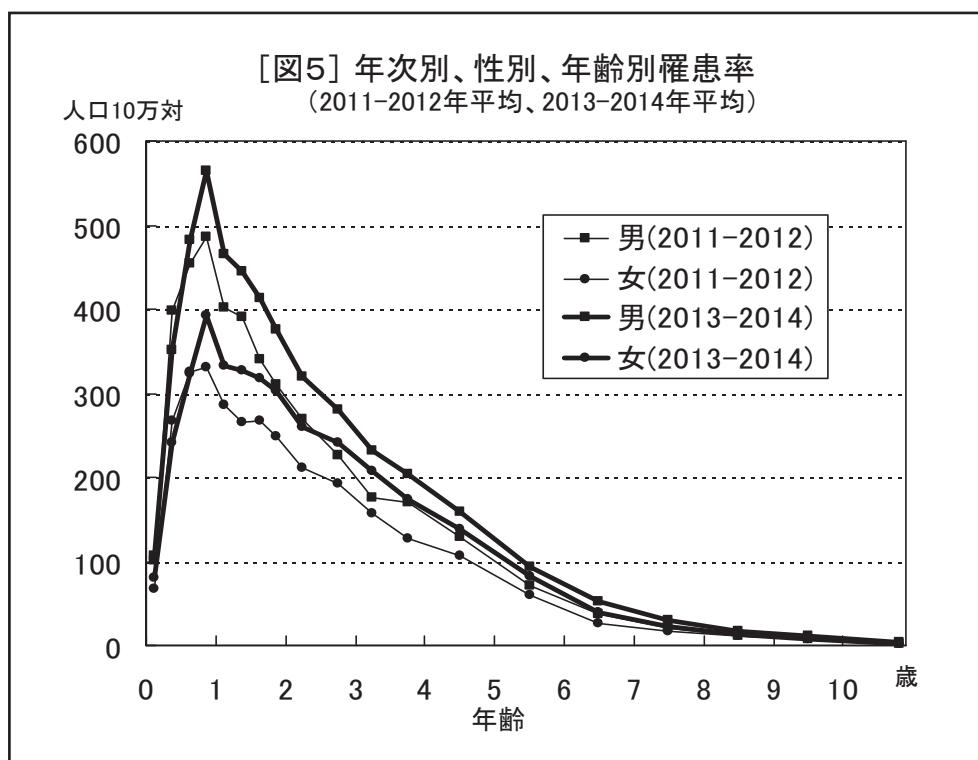
四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表19]性別、年齢別、心障害の有無別、診断別、転院の割合

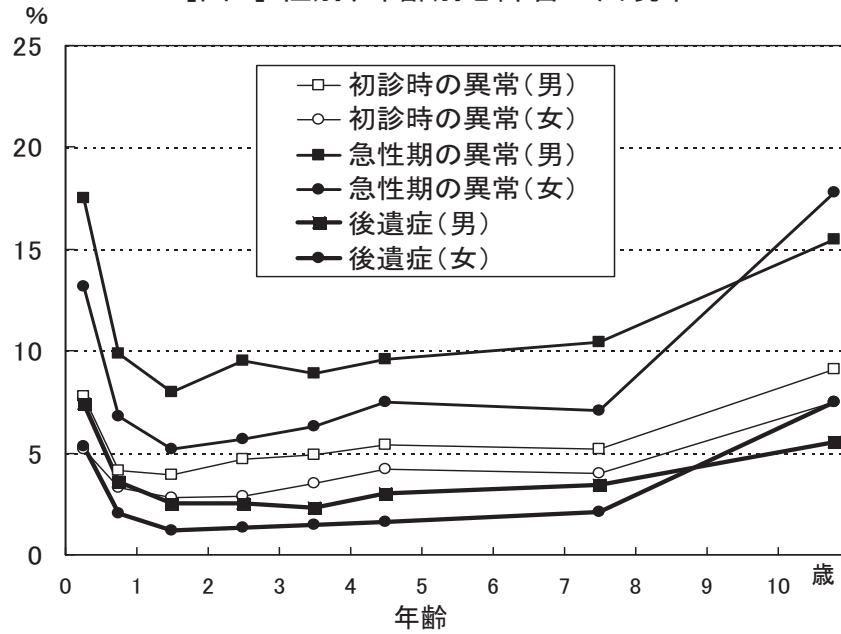
			総数(%)		転院あり(%)	
総数			31,675	(100)	1,388	(4.4)
性別	男		18,141	(100)	816	(4.5)
	女		13,534	(100)	572	(4.2)
年齢別	0-5か月		2,016	(100)	119	(5.9)
	6-11か月		4,563	(100)	210	(4.6)
	1歳		7,714	(100)	312	(4.0)
	2歳-4歳		13,142	(100)	557	(4.2)
	5歳-9歳		3,914	(100)	168	(4.3)
	10歳以上		326	(100)	22	(6.7)
心障害	初診時の異常	あり	1,339	(100)	151	(11.3)
		なし	30,078	(100)	1,104	(3.7)
		不明	258	(100)	133	(51.6)
	急性期の異常	あり	2,696	(100)	282	(10.5)
		なし	28,690	(100)	866	(3.0)
		不明	289	(100)	240	(83.0)
	後遺症	あり	822	(100)	114	(13.9)
		なし	30,137	(100)	757	(2.5)
		不明	716	(100)	517	(72.2)
	診断別*	定型例	24,872	(100)	1,092	(4.4)
		不定型例	612	(100)	42	(6.9)
		不全型	6,185	(100)	249	(4.0)

*「診断の確実度」不明 6人は表から除いた。

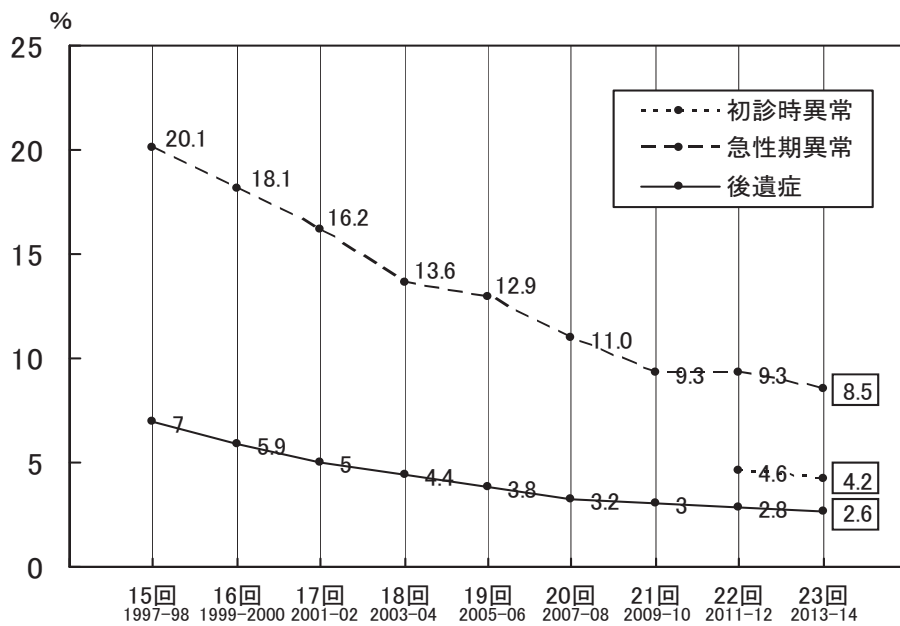




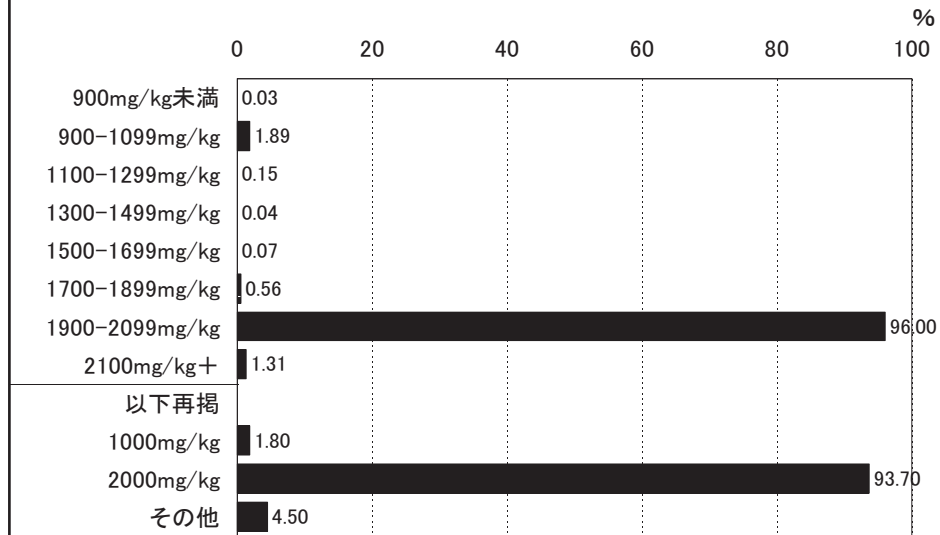
[図7] 性別、年齢別心障害の出現率



[図8] 心障害の出現割合の年次推移



〔図9〕 初回免疫グロブリン(IG)使用総量の分布



* 初回IG使用例29,322人のうち1日投与量、投与日数不明1人を除く29,321人を集計

第 2 3 回全国調査協力施設名（都道府県別、順不同）

1. 北海道

独立行政法人国立病院機構旭川医療センター
独立行政法人国立病院機構八雲病院
国立大学法人北海道大学病院
JR 札幌病院
NTT 東日本札幌病院
札幌医科大学附属病院
道立旭川肢体不自由児総合療育センター
道立羽幌病院
市立札幌病院
小樽市立病院
市立函館病院
江別市立病院
市立千歳市民病院
市立三笠総合病院
岩見沢市立総合病院
市立美瑛病院
砂川市立病院
市立赤平総合病院
深川市立病院
市立旭川病院
名寄市立総合病院
苫小牧市立病院
公立芽室病院
市立釧路総合病院
町立別海病院
市立稚内病院
留萌市立病院
旭川赤十字病院
総合病院伊達赤十字病院
浦河赤十字病院
清水赤十字病院
総合病院釧路赤十字病院
総合病院北見赤十字病院
社会事業協会・余市病院
社会事業協会・岩内病院
社会事業協会・帯広病院
JA 北海道厚生連札幌厚生病院
JA 北海道厚生連旭川厚生病院
JA 北海道厚生連帯広厚生病院
JA 北海道厚生連網走厚生病院
JA 北海道厚生連遠軽厚生病院
JCHO 北海道病院
社会医療法人母恋日鋼記念病院
王子総合病院
共愛会病院
勤医協札幌病院
札幌社会保険総合病院
五輪橋産科婦人科小児科病院
慶愛病院
町立松前病院
北楡会札幌北楡病院
北翔会札幌あゆみの園
北海道済生会西小樽病院
北海道立子ども総合医療・療育センター
自衛隊札幌病院
木古内町国民健康保険病院
KKR 札幌医療センター
北海道立江差病院
北海道社会事業協会・洞爺病院
国立大学法人旭川医科大学医学部附属病院
（財）小児愛育協会附属愛育病院
北海道療育園
新雨竜第一病院
医療法人浩仁会恵庭第一病院
士別市立病院
医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
手稲溪仁会病院
（医療法人）北農会恵み野病院
シロアムこどもクリニック

2. 青森県

独立行政法人国立病院機構弘前病院
国立大学法人弘前大学医学部附属病院
青森県立中央病院
青森市民病院
八戸市立市民病院
国民健康保険五戸総合病院
黒石市国保黒石病院
つがる西北五広域連合つがる総合病院
つがる西北五広域連合かなぎ病院
鯨ヶ沢病院
公立野辺地病院
十和田市立中央病院
むつ総合病院
国保三戸中央病院
八戸赤十字病院
町立大鰐病院
弘前市立病院
（財）双仁会 厚生病院
独立行政法人国立病院機構青森病院
津軽保健生活協同組合健生病院
医療法人赤心会十和田東病院

3. 岩手県

岩手県立釜石病院
岩手県立宮古病院
岩手県立胆沢病院
岩手県立磐井病院
岩手県立高田病院（仮設診療所）
岩手県立大船渡病院
岩手県立久慈病院
岩手県立二戸病院
水沢市国保総合水沢病院
盛岡赤十字病院
北上済生会病院
もりおかこども病院
盛岡友愛病院
岩手県立中部病院
独立行政法人国立病院機構盛岡病院
川久保病院
岩手県立遠野病院
東八幡平病院

4. 宮城県

国立病院機構仙台医療センター
独立行政法人国立病院機構宮城病院
東北大学病院
J R 仙台病院
仙台市立病院
大崎市民病院
気仙沼市立病院
（公立志津川総合病院）公立南三陸診療所
みやぎ県南中核病院
公立黒川病院
登米市民病院
総合病院仙台赤十字病院
東北公済病院
（財）宮城厚生協会坂総合病院
医療法人浄仁会大泉記念病院
エコー療育園
スズギ記念病院
仙台社保病院
光ヶ丘スベルマン病院
東北労災病院
自衛隊仙台病院
（財）宮城厚生協会 長町病院
宮城県拓桃医療療育センター
登米市立米谷病院

5. 秋田県

大館市立総合病院

男鹿みなと市民病院

秋田市立秋田総合病院
仙北市立角館総合病院
市立横手病院
秋田赤十字病院
J A 秋田厚生連 かつの厚生病院
山本組合総合病院
秋田厚生医療センター
由利組合総合病院
仙北組合総合病院
平鹿総合病院
雄勝中央病院
中通総合病院
佐藤病院
地域医療機能推進機構秋田病院
市立大森病院
秋田県立医療療育センター
国立病院機構あきた病院
秋田大学医学部附属病院
北秋田市民病院
藤原記念病院

6. 山形県

山形県立中央病院
山形県立新庄病院
天童市民病院
山形市立病院済生館
鶴岡市立荘内病院
公立高島病院
済生会 山形済生病院
（医療）篠田好生会篠田総合病院
日本海総合病院
公立置賜総合病院
篠田好生会 天童温泉篠田病院
山形県立河北病院
山形大学医学部附属病院
鶴岡協立病院
独立行政法人国立病院機構山形病院

7. 福島県

福島県立医科大学附属病院
公立藤田総合病院
公立岩瀬病院
公立小野町地方総合病院
いわき市立総合磐城共立病院
南相馬市立総合病院
総合病院福島赤十字病院
白河厚生総合病院
塙厚生病院
坂下厚生総合病院
（財）大原総合病院
公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院
（財）竹田総合病院
（財）常磐病院
福島整肢療護園
一般財団法人太田総合病院附属太田西/内病院
総合会津中央病院
新生会内科小児科佐藤病院
独立行政法人国立病院機構福島病院
（財）星総合病院
（財）松村総合病院
独立行政法人国立病院機構いわき病院
医療生協わたり病院
福島県総合療育センター
公立相馬総合病院

8. 茨城県

独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター
水戸済生会総合病院
神栖済生会病院
国公共済連水府病院

総合病院東京医科大学茨城医療センター
日立製作所 ひたちなか総合病院
城南病院
石岡第一病院
県立こども病院
茨城県立医療大学附属病院
威恵会三岳荘小松崎病院
なめがた地域総合病院
龍ヶ崎済生会病院
茨城愛心会 古河病院
常陸大宮済生会病院
藤慈会 藤井病院
県西総合病院
（医療）愛宣会 ひたち医療センター
（医療）盡誠会 宮本病院
株式会社日立製作所日立総合病院
筑波大学附属病院
古河赤十字病院
倅慈会日立港病院
（医療）常仁会牛久愛和総合病院
（財）筑波学園病院
（医療）厚友会 城西病院
北茨城市立総合病院
JA とりで総合医療センター
財団法人筑波メディカルセンター病院
きぬ医師会病院
茨城西南医療センター病院

9. 栃木県

独立行政法人国立病院機構栃木医療センター
新小山市民病院
芳賀赤十字病院
足利赤十字病院
済生会 宇都宮病院
石橋総合病院
国際医療福祉大学塩谷病院
佐野厚生総合病院
JCHO うつのみや病院
日光市民病院
社会医療法人博愛会 菅間記念病院
独立行政法人国立病院機構宇都宮病院
光南病院
医療法人社団友志会 野木病院
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院
医療法人中山会 宇都宮記念病院
あしかがの森 足利病院
自治医科大学附属病院
獨協医科大学病院小児科
黒須病院
菅又病院
とちぎリハビリテーションセンター
西方病院
とちの木病院

10. 群馬県

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター
独立行政法人国立病院機構沼田病院
群馬大学医学部附属病院
桐生厚生総合病院
藤岡総合病院
碓氷病院
伊勢崎市民病院
館林厚生病院
前橋赤十字病院
原町赤十字病院
公立富岡総合病院
群馬中央病院
富士重工業健康保険組合太田記念病院
利根中央病院
本島総合病院
群馬県立小児医療センター
両毛整肢療護園
西吾妻福祉病院
産科婦人科館出張佐藤病院
愛弘会 横田マタニティホスピタル

菊栄会 渋川中央病院
伊勢崎佐波医師会病院
済生会前橋病院
前橋協立病院
重症心身障害児施設はんなさわらび療育園
希望の家療育病院
高崎中央病院
下仁田厚生病院

11. 埼玉県

独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院
独立行政法人国立病院機構埼玉病院
蔵市立病院
春日部市立病院
草加市立病院
さいたま赤十字病院
深谷赤十字病院
埼玉県済生会川口総合病院
埼玉厚生農協連熊谷総合病院
埼玉社会保険病院
社保大宮総合病院
川口工業総合病院
戸田中央総合病院
（医療）ヘブロン会大宮中央総合病院
聖蹟会 埼玉県央病院
埼玉県済生会栗橋病院
北里大学メディカルセンター
川口市立医療センター
ヘリオス会病院
秩父市立病院
本庄総合病院
土屋小児病院
熊谷生協病院
三愛会総合病院
埼玉医療生活協同組合皆野病院
医療法人壮幸会 行田総合病院
さいたま市民医療センター
自治医科大学附属さいたま医療センター
恵愛会 恵愛病院
明芳会 イムス三芳総合病院
飯能中央病院
埼玉医科大学病院
さいたま市立病院
独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
越谷市立病院
（医社）協友会 吉川中央総合病院
朝霞台中央総合病院
（医社）協友会八潮中央総合病院
防衛医科大学校病院
（医療）聖仁会 西部総合病院
埼玉協同病院
至誠堂富田病院
（医社）青葉会 新座病院
（医療）誠壽会 上福岡総合病院
国立身障者リハビリテーションセンター病院
（医療）積仁会 旭ヶ丘病院
医療法人社団協友会東川口病院
埼玉医療生活協同組合羽生総合病院
獨協医科大学越谷病院
医療法人一心会伊奈病院
医療法人社団堀ノ内病院
医療法人赤心堂病院
埼玉医科大学総合医療センター
行田中央総合病院
社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院
至聖病院

12. 千葉県

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
独立行政法人国立病院機構下志津病院
千葉大学医学部附属病院
千葉県立佐原病院
千葉県循環器病センター
千葉市立青葉病院
東京ベイ・浦安市川医療センター

国保松戸市立病院
いすみ医療センター
国保直営総合病院君津中央病院
成田赤十字病院
千葉県済生会習志野病院
医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター
（医療）鉄蕉会 亀田総合病院
東京歯科大学市川総合病院
千葉西総合病院
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院
高根病院
千葉県こども病院
東邦大学医療センター佐倉病院
野田病院
日本医科大学千葉北総病院
国保多古中央病院
医療法人 鎗田病院
東京女子医科大学附属八千代医療センター
柏市立柏病院
蛍水会 名戸ヶ谷あびこ病院
重光会 君津山の手術院
木下会 鎌ヶ谷総合病院
（医療）聖峰会 岡田病院
独立行政法人国立病院機構千葉東病院
千葉社会保険病院
（医社）千葉健生病院
（医財）明理会新松戸中央総合病院
聖隷佐倉市民病院
（医社）上総会 山之内病院
（医療）公明会 塩田病院
（医法）成春会北習志野花輪病院
（医社）勤労者医協船橋二和病院
（医社）協友会 船橋総合病院
（医社）協友会 柏厚生総合病院
千葉市立海浜病院
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
船橋市立医療センター
（医社）愛友会 千葉愛友会記念病院
医療法人社団保健会谷津保健病院
（医社）翠明会 山王病院
医療法人三矢会八街総合病院
帝京大学ちば総合医療センター
東京慈恵会医科大学附属柏病院

13. 東京都

独立行政法人国立国際医療研究センター病院
国立成育医療研究センター
独立行政法人国立病院機構東京医療センター
小児科
東京大病院
東京医科歯科大学病院
NTT 東日本関東病院
JR 東京総合病院
東京通信病院
自衛隊中央病院
都立駒込病院
都立墨東病院
都立荏原病院
都立広尾病院
東京都立大塚病院
都立北療育医療センター
青梅市立総合病院
日野市立病院
稲城市立病院
公立昭和病院
総合病院大森赤十字病院
日本赤十字社医療センター
葛飾赤十字産院
武蔵野赤十字病院
東京都済生会中央病院
公立福生病院
東京蒲田医療センター
東京新宿メディカルセンター
せんぼ東京高輪病院
虎の門病院

総合病院三宿病院
公立学校共済組合 関東中央病院
東京警察病院
三楽病院
聖路加国際病院
北里研究所病院
永寿総合病院
（財）日産厚生会 玉川病院
（社）至誠会第二病院
（医社）江東病院
世田谷中央病院
荻窪病院
（医財）河北総合病院
（医社）大坪会 北多摩病院
杏林大学医学部付属病院
日本大学病院
東京慈恵会医科大学病院
東京女子医科大学病院
慶應義塾大学病院
東京医科大学病院
日本医科大学病院
順天堂大学附属順天堂医院
昭和大学病院
東邦大学医療センター大橋病院
東邦大学 大森病院
東京女子医科大学東医療センター
日本大学医学部附属板橋病院
慈恵医大葛飾医療センター
東京慈恵会医科大学附属病院第3病院
東都文京病院
東芝病院
三井記念病院
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院
（社福）聖母会 聖母病院
浅草寺病院
久我山病院
東京医療生協組合 中野総合病院
立正佼成会 附属佼成病院
東京衛生病院
（社福）勝楽堂病院
（社福）日本心身障害者協会島田療育センター
（社福）東京都同胞援護会昭島病院
（社福）鶴風会東京小児療育病院
医療法人社団日心会総合病院一心病院
まつしま産婦人科小児科病院
財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院
三医会鶴川記念病院
独立行政法人国立病院機構災害医療センター
小児科
都立東大和療育センター
医療法人社団久保田産婦人科病院
東京臨海病院
東海大学医学部付属八王子病院
東京北医療センター
公益財団法人日本心臓血圧研究振興会附属
榑原記念病院
東京都立小児総合医療センター
正志会 東京リバーサイド病院
永生会 南多摩病院
正志会 南町田病院
多摩北部医療センター
大和会 武蔵村山病院
（医財）健康文化会 小豆沢病院
緑風荘病院
阿伎留医療センター
（医社）誠志会 誠志会病院
日本医科大学 多摩永山病院
博慈会記念総合病院
（社福）聖ヨハネ会桜町病院
昭和大学付属豊洲病院
（医社）板橋中央総合病院
（医社）水野クリニック
東京医科大学八王子医療センター
国立精神神経医療研究センター病院
医療法人社団健生会立川相互病院

東京労災病院
王子生協病院
練馬光が丘病院
医療法人社団大坪会東和病院

14. 神奈川県

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
横須賀市立うわまち病院
独立行政法人国立病院機構相模原病院
独立行政法人国立病院機構神奈川病院
厚木市立病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター小児
総合医療センター
横浜市内市民病院
川崎市立川崎病院
平塚市民病院
茅ヶ崎市立病院
小田原市立病院
三浦市立病院
横浜市立みなと赤十字病院
横浜船員保険病院
住友重機械健保組合 浦賀病院
横須賀共済病院
国公共済連総合病院平塚共済病院
（財）神奈川県警友会けいゆう病院
大口東総合病院
京浜総合病院
総合川崎臨港病院
（医療）愛仁会 太田総合病院
（医社）亮正会総合高津中央病院
淵野辺総合病院
日本医科大学 武蔵小杉病院
（社福）日本医療伝道会総合病院衣笠病院
（社福）湘南福祉協会総合病院湘南病院
総合相模更生病院
鈴木病院
医療法人産育会堀病院
西横浜国際総合病院
湘南鎌倉総合病院
新横浜母と子の病院
独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
横浜市内大学附属病院
自衛隊横須賀病院
康心会湘南東部総合病院
（医療）柏堤会 戸塚共立第2病院
昭和大学横浜市北部病院こどもセンター
済生会横浜市東部病院こどもセンター
鴨居病院
川崎市立多摩病院
三成会 新百合ヶ丘総合病院
聖隷横浜病院
関東労災病院
総合病院秦野赤十字病院
伊勢原協同病院
国公共済連 虎の門病院分院
総合病院横浜通信病院
神奈川県立こども医療センター
藤沢市民病院
昭和大学 藤が丘病院
聖マリアンナ医科大学病院
東海大学病院
北里大学病院
帝京大学 溝口病院
川崎医療生協 川崎協同病院
相模台病院
済生会 横浜市南部病院
神奈川県立汐見台病院
（医社）青葉会 牧野記念病院
（医療）徳洲会 大和徳洲会病院
桜ヶ丘中央病院 小児科
湘南藤沢徳洲会病院
（医社）愛友会 金沢文庫病院
東海大学医学部附属大磯病院
（医社）JMA 海老名総合病院
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

医療法人社団緑成会横浜総合病院
医療法人社団柏綾会綾瀬厚生病院

15. 新潟県

新潟大学医歯学総合病院
新潟県立ガンセンター新潟病院
新潟県立新発田病院
新潟県立吉田病院
新潟県立小出病院
新潟県立六日町病院
新潟県立十日町病院
新潟県立中央病院
町立津南病院
総合病院長岡赤十字病院
済生会 三条病院
豊栄病院
長岡中央総合病院
魚沼病院
上越総合病院
けいなん病院
糸魚川総合病院
佐渡総合病院
小千谷総合病院
（医療）立川総合病院
済生会新潟第二病院
共生会中条中央病院
新潟市民病院
木戸病院
新潟医療センター
独立行政法人国立病院機構さいがた病院
新潟県はまぐみ小児療育センター
新潟県立坂町病院
独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院
下越病院
長岡療育園
厚生連村上総合病院

16. 富山県

富山市立富山市民病院
黒部市民病院
高岡市民病院
かみいち総合病院
射水市民病院
市立砺波総合病院
富山県済生会 富山病院
富山県済生会 高岡病院
厚生連高岡病院
JCHO 高岡ふしき病院
三田会高岡みなみ病院
公立南砺中央病院
丘生会 岡田産科婦人科病院
南砺市民病院
独立行政法人国立病院機構富山病院
金沢医科大学氷見市民病院
富山大学附属病院
あさひ総合病院
富山県高志リハビリテーション病院

17. 石川県

山中温泉医療センター
金沢大学附属病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
国保小松市民病院
公立能登総合病院
加賀市民病院
町立富来病院
金沢輪島病院
金沢赤十字病院
公立松任石川中央病院
公立つるぎ病院
金沢聖霊総合病院
恵寿総合病院
荒木病院
浅ノ川総合病院

能美市立病院
珠洲市総合病院
城北病院
金沢医科大学病院
金沢子ども医療センター
金沢西病院
独立行政法人国立病院機構七尾病院
独立行政法人国立病院機構石川病院
公立穴水総合病院
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院

18. 福井県
独立行政法人 国立病院機構 福井病院
公立丹南病院
福井県立病院
坂井市立三国病院
市立敦賀病院
公立小浜病院
福井赤十字病院
福井県済生会病院
福井社会保険病院
岩井病院
独立行政法人国立病院機構あわら病院
福井県子ども療育センター
大滝病院
レイクヒルズ美方病院
新田塚医療福祉センター福井クリニック小児科
福井心臓血圧センター福井循環器病院
(医療) 福井愛育病院
福井大学医学部附属病院

19. 山梨県
山梨県立中央病院
市立甲府病院
北杜市立甲陽病院
塩山市民病院
都留市立病院
桃花会一宮温泉病院
石和共立病院
徳洲会白根徳洲病院
康麗会 笛吹中央病院
山梨赤十字病院
甲府共立病院
山梨厚生病院
山梨県立あけぼの医療福祉センター
大月市立中央病院
山梨大学医学部附属病院

20. 長野県
独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター
信州大学医学部附属病院
長野県立阿南病院
長野県立木曽病院
長野県立須坂病院
佐久穂町立千曲病院
諏訪中央病院
市立岡谷病院
伊那中央病院
諏訪赤十字病院
下伊那赤十字病院
安曇野赤十字病院
長野赤十字病院
飯山赤十字病院
佐久医療センター
長野県厚生農協連 安曇総合病院
J A 長野厚生連 北信総合病院
長野厚生農協連 新町病院
(医療) 慈泉会 相澤病院
県立子ども病院
長野市民病院
中信勤労者医療協会塩尻協立病院
元山会中村病院
軽井沢町国民健康保険軽井沢病院
敬仁会桔梗ヶ原病院
佐久市立国保浅間総合病院

国立病院機構まつもと医療センター中信松本病院
昭和伊南総合病院
町立辰野病院
飯田市立病院
城西病院
国保依田窪病院
信濃医療福祉センター
長野県厚生農業組合連合会富士見高原病院
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院
医療法人新生病院
御代田中央記念病院
健和会病院
松本市立病院
松本協立病院

21. 岐阜県
国立病院機構長良医療センター
市立恵那病院
岐阜県総合医療センター
岐阜県立多治見病院
岐阜市民病院
大垣市民病院
美濃市立美濃病院
多治見市民病院
土岐市立総合病院
総合病院中津川市民病院
下呂市立金山病院
高山赤十字病院
岐阜県厚生農協連 西美濃厚生病院
岐阜県厚生農協連 揖斐厚生病院
岐阜県厚生農協連 中濃厚生病院
J A 岐阜厚生連 東濃厚生病院
独立行政法人地域医療機能推進機構可児とうのう
病院
公立学校共済組合 東海中央病院
みどり病院
医療法人藤掛病院
岐阜大学医学部附属病院
岐阜県立下呂温泉病院
(医社) 誠広会 平野総合病院
松波総合病院
国保坂下病院
岐阜赤十字病院
医療法人社団友愛会岩砂病院・岩砂マタニティ
河村病院
岐阜県厚生連久美愛病院

22. 静岡県
国立病院機構静岡医療センター
独立行政法人国立病院機構天竜病院
静岡県立総合病院
静岡市立静岡病院
沼津市立病院
富士市立中央病院
富士宮市立病院
静岡市立清水病院
共立蒲原総合病院
藤枝市立総合病院
焼津市立総合病院
磐田市立総合病院
市立湖西病院
静岡赤十字病院
伊豆赤十字病院
浜松赤十字病院
静岡済生会総合病院
JA 静岡厚生連 遠州病院
(財) 恵愛会 聖隷富士病院
浜松医療センター
順天堂大学医学部附属静岡病院
聖隷三方原病院
熱海所記念病院
国際医療福祉大学附属熱海病院
静岡県立静岡がんセンター
静岡徳洲会病院
静岡県立子ども病院

浜松医科大学附属病院
独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経
医療センター
浜松労災病院
芙蓉協会 聖隷沼津病院
浜松北病院
市立御前崎総合病院

23. 愛知県
国立病院機構名古屋医療センター
国立病院機構豊橋医療センター
名古屋大学病院
名古屋通信病院
名古屋市立西部医療センター
名古屋市立大学病院
豊橋市民病院
岡崎市民病院
一宮市立市民病院
公立陶生病院
半田市立半田病院
春日井市民病院
小牧市民病院
豊川市民病院
津島市民病院
あま市民病院
西尾市民病院
蒲郡市民病院
常滑市民病院
名古屋第二赤十字病院
J A 愛知厚生連 海南病院
J A 愛知厚生連 豊田厚生病院
J A 愛知厚生連 安城更生病院
J A 愛知厚生連 江南厚生病院
社保中京病院
名鉄病院
名古屋掖済会病院
総合上飯田第一病院
総合大雄会病院
東海市民病院
三菱名古屋病院
大同病院
トヨタ記念病院
聖霊病院
尾張健友会 千秋病院
秋田病院
名南病院
碧南市民病院
豊田地域医療センター
愛知県青い鳥医療福祉センター
みよし市民病院
あいち小児保健医療総合センター
名古屋西病院
一宮西病院
東名古屋病院
中部労災病院
N T T 西日本東海病院
南生協病院
藤田保健衛生大学病院
藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院
愛知医科大学病院
愛知県心身障害者コロニー中央病院
福祉会 高須病院
(医療) 宝美会 総合青山病院
(医療) 志聖会 総合犬山中央病院
J A 愛知厚生連 尾西病院
(医療) 済衆館済衆館病院
J A 愛知厚生連 知多厚生病院
旭労災病院
医療法人財団新和会八千代病院
小嶋病院
医療法人青山病院
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院

24. 三重県
独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院

国立病院機構三重中央医療センター
三重県立総合医療センター
三重大学医学部附属病院
三重県立志摩病院
桑名西医療センター
市立四日市病院
市立伊勢総合病院
尾鷲総合病院
紀南病院
伊勢赤十字病院
四日市社会保険病院
桑名東医療センター
岡波総合病院
J A 三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院
菰野厚生病院
名張市立病院
J A 三重県厚生連 いなべ総合病院
済生会明和病院
伊勢慶友病院
国立病院機構三重病院
津生協病院
鈴鹿回生病院

25. 滋賀県
大津市民病院 小児循環器科
近江八幡市立総合医療センター
彦根市立病院
市立長浜病院
長浜市立湖北病院
高島市民病院
大津赤十字病院
長浜赤十字病院
済生会滋賀県病院
地域医療機能推進機構滋賀病院
(財) 豊郷病院
重症心身障害児施設びわこ学園医療福祉センター草津
誠光会草津総合病院
大津赤十字志賀病院
昂会湖東記念病院
近江草津徳洲会病院
医療法人 マキノ病院
東近江市立蒲生町病院
(医療) 彦根中央病院
滋賀医科大学病院
滋賀県立小児保健医療センター
野洲病院
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院
日野記念病院

26. 京都府
京都医療センター
市立福知山市民病院
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター
京都大学医学部附属病院 小児科
京都府立医科大学付属北部医療センター
京都市立病院
公立南丹病院
京都第二赤十字病院
京都第一赤十字病院
済生会 京都府病院
京都鞍馬口医療センター
舞鶴共済病院
総合病院 日本バプテスト病院
(社) 愛生会 山科病院
堀川病院
総合病院 京都南病院
綾部市立病院
府立舞鶴こども療育センター
石鎚会田辺中央病院
亀岡市立病院
新京都南病院
京都協立病院
西京都病院
独立行政法人国立病院機構宇多野病院

京都通信病院
宇治武田病院
京都社会事業財団 京都桂病院
美杉会男山病院
(医療) 育生会 久野病院
京都山城総合医療センター
聖ヨゼフ医療福祉センター
(医療) 医仁会 武田総合病院
宇治徳洲会病院
(医療) 啓信会 京都きづ川病院
(医療) 福富士会 京都ルネス病院
京丹後市立弥栄病院
医療法人頌徳会比叡病院
社団法人京都保健会京都民医連中央病院
洛和会 音羽病院
京都市桃陽病院
医療法人和松会六地藏総合病院
京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門
三菱京都病院

27. 大阪府
独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
大阪大学医学部附属病院
大阪府立十三市民病院
大阪府立大学医学部付属病院
市立池田病院
市立豊中病院
市立吹田市民病院
市立枚方市民病院
東大阪市立総合病院
八尾市立病院
泉大津市立病院
市立岸和田市民病院
市立貝塚病院
りんくう総合医療センター
大阪赤十字病院
済生会 中津病院
大阪府済生会 泉尾病院
済生会野江病院
大阪府済生会 吹田病院
大阪府済生会 茨木病院
独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院
大阪みなと中央病院
東豊中渡辺病院
松下記念病院
住友病院
大阪掖済会病院
日本生命済生会付属日生病院
聖バルナバ病院
大阪府警察協会大阪警察病院
石井記念愛染園付属愛染橋病院

(財) 西淀病院
社会医療法人きっこう会 多根総合病院
彰療会 大正病院
同仁会 耳原総合病院
宝生会 P L 病院
生長会 府中病院
大阪医科大学病院
関西医科大学香里病院
大阪暁明館病院
淀川キリスト教病院
大阪府済生会千里病院
真美会 中野こども病院
寺西報恩会 長吉総合病院
聖和病院
医療法人第一東和会病院
医療法人枚岡病院
若弘会若草第一病院
錦秀会阪和住吉総合病院
大阪府立総合医療センター小児救急科
枚方公済病院
三友会久松病院
四天王寺福祉事業団四天王寺和らぎ苑
関西医科大学附属枚方病院

関西医科大学附属滝井病院
飯島病院
守口生野記念病院
萱島生野病院
野崎徳洲会病院
喉生会脳神経外科病院
市立柏原病院
協和会 加納総合病院
仙養会 北摂総合病院
近畿大学医学部堺病院
大阪労災病院
国立循環器病研究センター
大阪北通信病院
和泉市立病院
高槻赤十字病院
JCHO 星ヶ丘医療センター
愛仁会 千船病院
清恵会病院
岸和田徳洲会病院
愛仁会 高槻病院
近畿大学医学部附属病院
コープおおさか病院
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
医誠会 城東中央病院
大道会 森之宮病院
箕面市立病院
祐生会 みどりヶ丘病院
協仁会 小松病院
生協こども診療所
河内友誼会 河内総合病院
徳洲会 八尾徳洲会総合病院
大阪府立母子保健総合医療センター
阪南市民病院
同友会 共和病院
生長会 ベルランド総合病院
うえた下田部病院
市立藤井寺市民病院
孟仁会 摂南総合病院

28. 兵庫県
明石医療センター
神戸大学病院
関西労災病院
兵庫県立尼崎病院
兵庫県立塚口病院
兵庫県立淡路医療センター
兵庫県立西宮病院
神戸市立医療センター中央市民病院
明石市立市民病院
公立豊岡病院
西宮市立中央病院
加古川西市民病院
市立川西病院
市立伊丹病院
高砂市民病院
赤穂市民病院
市立西脇病院
市立芦屋病院
三田市民病院
姫路赤十字病院
済生会 兵庫県病院
JCHO 神戸中央病院
公学共済 近畿中央病院
甲南病院
神戸掖済会病院
(医療) 明和病院
製鉄記念広畑病院
六甲アイランド甲南病院
西神戸医療センター
公立宍粟総合病院
樹徳会上ヶ原病院
兵庫医科大学ささやま医療センター
協和会協和マリナホスビタル
淡路平成会東浦平成病院
北播磨総合医療センター

神戸市立医療センター西市民病院
公立香住病院
神戸赤十字病院
西宮すなご医療福祉センター
西宮回生病院
神戸通信病院
兵庫県立こども病院
加東市民病院
（医療）尚和会 宝塚第一病院
総合病院 姫路聖マリア病院
尼崎医療生協病院
（医療晋真会）ペリタス病院
加古川東市民病院
独立行政法人国立病院機構兵庫青野原病院
公立神崎総合病院
兵庫県立柏原病院
東神戸病院
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター
神戸徳洲会病院
神戸アドベンチスト病院
医療法人社団まほし会真星病院
医療法人 パルモア病院
汐咲会 井野病院
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院

29. 奈良県
市立奈良病院
奈良県立医科大学病院
宇陀市立病院
吉野町国保吉野病院
町立大淀病院
済生会 奈良病院
地域医療機能推進機構大和郡山病院
天理よろづ相談所病院
土庫病院
奈良県総合リハビリテーションセンター
国保中央病院
近畿大学医学部奈良病院
阪奈中央病院
独立行政法人国立病院機構奈良医療センター
天理市メディカルセンター
奈良県立総合医療センター
奈良県立五條病院
奈良県西和医療センター
済生会 中和病院
清心会 桜井病院
奈良友誼会病院

30. 和歌山県
和歌山県立医科大学病院
和歌山県立医科大学病院紀北分院
海南医療センター
公立那賀病院
橿本市民病院
有田市立病院
社会保険紀南病院
新宮市立医療センター
日本赤十字社和歌山医療センター
和歌浦中央病院
北出病院
那智勝浦町立温泉病院
労働福祉事業団 和歌山ろうさい病院
和歌山生協病院
医療法人青松会河西田村病院

31. 鳥取県
独立行政法人国立病院機構米子医療センター
鳥取県立中央病院
鳥取県立厚生病院
岩美町国保岩美病院
国保智頭病院
鳥取県済生会 境港総合病院
博愛病院
鳥取生協病院
日南病院

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

32. 島根県
大田市立病院
独立行政法人国立病院機構浜田医療センター
島根県立中央病院
松江市立病院
出雲市立総合医療センター
町立奥出雲病院
雲南市立病院
隠岐広域連合立隠岐病院
松江赤十字病院
益田赤十字病院
済生会 江津総合病院
東部島根医療福祉センター
公立邑智病院
安来市立病院
島根大学医学部附属病院
西部島根医療福祉センター
松江記念病院

33. 岡山県
国立病院機構岡山医療センター
岡山大学病院
総合病院 岡山市立市民病院
倉敷市立児島市民病院
市立井原市民病院
岡山赤十字病院
川崎医科大学付属川崎病院
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院
津山中央病院
（医）水和我 水島中央病院
水島第一病院
新見中央病院
総合病院 落合病院
総合病院 岡山協立病院
総合病院 水島協同病院
医療法人三水会 田尻病院
瀬戸内市民病院
矢掛町国民健康保険病院
総合病院玉野市立玉野市民病院
旭川荘療育・医療センター
川崎医科大学附属病院
独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター
重井医学研究所附属病院
（財）仁厚医学研究所 児島中央病院
倉敷成人病センター
倉敷リバーサイド病院
倉敷スイードホスピタル
笠岡中央病院
笠岡第一病院
岡山労災病院

34. 広島県
呉医療センター
独立行政法人国立病院機構福山医療センター
広島鉄道病院
広島通信病院
県立広島病院
県立安芸津病院
広島市立広島市民病院
市立三次中央病院
広島赤十字・原爆病院
総合病院 三原赤十字病院
総合病院 庄原赤十字病院
広島厚生連農協 尾道総合病院
J A広島厚生連 広島総合病院
中国電力株式会社 中電病院
福島生協病院
葵会八本松病院
里仁会白龍湖病院
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター
日本鋼管福山病院
広島市立舟入病院

福山市市民病院
広島医療生協広島共立病院
広島市立安佐市民病院
中国労災病院
県立障害者リハビリテーションセンター医療センター
あかね会 土谷総合病院
正岡病院
うすい会 高陽ニュータウン病院
里仁会 興生総合病院

35. 山口県
国立病院機構関門医療センター
独立行政法人国立病院機構岩国医療センター
山口大学病院
山口県立総合医療センター
下関市立市民病院
済生会 下関総合病院
周東総合病院
長門総合病院
JCHO 徳山中央病院
神徳会 三田尻病院
山口労災病院
鼓ヶ浦こども医療福祉センター
山口県済生会下関市立豊浦病院
萩市民病院
みちがみ病院
独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター
済生会 山口総合病院

36. 徳島県
独立行政法人国立病院機構徳島病院
徳島大学病院
徳島県立中央病院
町立半田病院
徳島赤十字病院
厚生連 麻植協同病院
徳島県鳴門病院
徳島県立海部病院
（医療）原田病院
阿波病院
（医）静可会 三加茂田中病院

37. 香川県
さぬき市民病院
土庄中央病院
坂出市立病院
三豊総合病院
高松赤十字病院
屋島総合病院
滝宮総合病院
りつりん病院
麻田総合病院
深田記念会松井病院
内海病院
赤心会赤沢病院
高松市民病院
四国こどもとおとなの医療センター
香川県済生会病院
坂出聖マルチン病院
香川大学医学部附属病院
高松平和病院
大樹会総合病院 回生病院
香川井下病院

38. 愛媛県
独立行政法人国立病院機構愛媛医療センター
愛媛県立中央病院
愛媛県立今治病院
市立八幡浜総合病院
市立宇和島病院
宇和島市立津島病院
住友別子病院
南愛媛療育センター
公立学校共済組合四国中央病院

伊予病院
天山病院
瀬戸内海病院
（財法）積善会附属十全総合病院
更生会 村上記念病院
H I T O病院
総合病院 松山市民病院
済生会今治病院
美須賀病院

39. 高知県
国立病院機構高知病院
高知医療センター
仁淀病院
土佐市立土佐市民病院
佐川町立高北国保病院
高知赤十字病院
J A高知病院
聖真会 渭南病院
公世会野市中央病院
幡多けんみん病院
高知大学医学部附属病院
高知県立あき総合病院

40. 福岡県
独立行政法人国立病院機構小倉医療センター
国立病院九州医療センター
独立行政法人国立病院機構福岡病院
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
久留米大学医療センター小児科
九州大学病院
福岡通信病院
北九州市立門司病院
産業医大若松病院
北九州市立八幡病院
筑後市立病院
公立八女総合病院
福岡赤十字病院
福岡県済生会 八幡総合病院
福岡県済生会 福岡総合病院
独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院
浜の町病院
福岡記念病院
久留米大学病院
宗像水光会総合病院
飯塚市立病院
福岡三王山病院
遠賀中間医師会 おんが病院
福岡新水巻病院
九州労災病院
国立病院九州がんセンター
自衛隊 福岡病院
くらて病院
聖ヨゼフ園
慈恵曽根病院
大牟田記念病院
正信会 水戸病院
ゆうかり医療療育センター
産業医科大学病院
福岡大学病院
総合病院千鳥橋病院
北九州総合病院
北九州市立総合療育センター
福岡市立こども病院・感染症センター感染症科
米の山病院
太刀洗病院
高邦会 高木病院
健和会 大手町病院
牧山中央病院
川崎町立病院
朝倉医師会病院
牟田病院
健和会京町病院
福岡県立粕屋新光園
福岡大学筑紫病院

相生会 宮田病院
社会保険田川病院

41. 佐賀県
独立行政法人国立病院機構佐賀病院
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
佐賀県立病院 好生館
佐賀社会保険病院
ひらまつ病院
佐賀整肢学園こども発達医療センター
古賀小児科内科病院
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀大学医学部附属病院
至慈会 高島病院

42. 長崎県
国立病院長崎医療センター
長崎大学病院
長崎市立市民病院
佐世保市立総合病院
長崎県五島中央病院
壱岐市民病院
健保諫早総合病院
佐世保共済病院
長崎記念病院
（医療）白十字会佐世保中央病院
県立こども医療福祉センター
医療法人医理会 柿添病院
長崎県島原病院
済生会長崎病院
諫早療育センター
長崎県対馬いづはら病院
平成会 女の都病院
長崎県上五島病院

43. 熊本県
熊本大学医学部附属病院
熊本市市民病院(小児科)
荒尾市民病院
阿蘇中央医療センター
小国公立病院
水俣市立総合医療センター
球磨郡公立多良木病院
熊本赤十字病院
熊本中央病院
熊本労災病院
天草慈恵病院
愛育会 福田病院
くわみず病院
熊本循環器科病院
天草地域医療センター
谷田会谷田病院
聖和会有明成仁病院
社会医療法人黎明会宇城総合病院
慈恵病院
桜十字病院
牛深市民病院
くまもと芦北療育医療センター
熊本地域医療センター
公立玉名中央病院
山鹿市民医療センター
独立行政法人国立病院機構菊池病院
坂梨会 阿蘇温泉病院
菊池中央病院

44. 大分県
国立病院機構別府医療センター
独立行政法人国立病院機構西別府病院
中津市立中津市民病院
大分県立病院
国東市民病院
杵築市立山香病院
大分赤十字病院
大分県厚生連鶴見病院
津久見市医師会立津久見中央病院

大分こども病院
大分県済生会日田病院
別府発達医療センター
大川産婦人科病院
高田中央病院
大分市医師会立アルメイダ病院
大分大学医学部附属病院
大分健生病院
西田病院
医療法人財団天心堂へつぎ病院
大分岡病院
竹田医師会病院

45. 宮崎県
国立都城病院
県立宮崎病院
県立延岡病院
県立日南病院
小林市立病院
高千穂町国保病院
都城市郡医師会病院
県立こども療育センター
宮崎生協病院
独立行政法人国立病院機構宮崎東病院
宮崎大学附属病院
宮崎県済生会日向病院

46. 鹿児島県
国立病院鹿児島医療センター
独立行政法人国立病院機構指宿医療センター
鹿児島大学病院
県民健康プラザ鹿屋医療センター
鹿児島市立病院
出水総合医療センター
中村温泉病院
鹿児島こども病院
国分生協病院
沖永良部徳州会病院
喜界徳州会病院
徳洲会屋久島徳洲会病院
徳洲会名瀬徳洲会病院
今村病院
董仁会 池田病院
奄美中央病院
県立大島病院
独立行政法人国立病院機構南九州病院
総合病院鹿児島生協病院
徳洲会 鹿児島徳洲会病院
財団法人今給黎総合病院

47. 沖縄県
北部病院
医療法人球陽会海邦病院
うえむら病院
県立北部病院
沖縄県立中部病院
総合病院沖縄赤十字病院
琉球大学病院
沖縄協同病院
敬愛会 中頭病院
那覇市立病院
沖縄整肢療護園
友愛会 豊見城中央病院
沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
もとぶ野毛病院
中部徳洲会病院
かりゆし会ハートライフ病院
潮平病院
沖縄療育園
医療法人信和会沖縄第一病院
八重瀬会 同仁病院

第23回川崎病全国調査 別紙

Q1.「施設に関する質問」調査票

川崎病患者調査票とあわせてお送り下さい

施設シール貼付

※今回の調査対象患者（2013年、2014年に発症し受診した患者）はいましたか

1.あり 2.なし

記載者ご氏名()

1. 貴院のベッド数はいくつですか。 病 院 全 体 _____ 床 小児科一般病床 _____ 床
2. 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医 _____ 人 非常勤小児科医 _____ 人
そのうち循環器を専門とする小児科医 常勤小児科医 _____ 人 非常勤小児科医 _____ 人
3. 貴院では急性期の心障害も心後遺症もない川崎病既往児をいつまで観察するかの方針を決めていますか。
 1. 決めていない（主治医の判断にゆだねている）
 2. 決めている
 - a) 罹患後1年まで b) 罹患後5年まで c) 小学校入学まで d) 中学校入学まで
 - e) 高校入学まで f) その他
4. 川崎病診療費の支払い方法はどちらですか。
 1. 出来高払い（全医療行為について）
 2. 定額払いの導入（DPC 適用）
(2.のみ) 免疫グロブリン投与などの制限を受けたことがありますか。 1. はい 2. いいえ
5. 2013年、2014年（今回の全国調査対象期間）中に次の疾患の既往・同時発症・続発発症した川崎病患者はいましたか。
 1. 若年性特発性関節炎 1. あり 2. なし
若年性特発性関節炎の定義
16歳以下の小児期に発症する原因不明の慢性関節炎と定義される。（関節痛ではなく関節炎が確認されたもの）
 2. PFAPA 症候群 1. あり 2. なし
PFAPA 症候群（Syndrome of Periodic Fever, Aphthous stomatitis, Pharyngitis and Adenitis）の診断基準
(1) 幼少期に発症し規則的に反復する発熱
(2) 上気道感染症を除外できる体質的な症状であり、以下の症状のうち少なくとも1つをとまなう
 - a) アフタ性口内炎 b) 頸部リンパ節炎 c) 咽頭炎
(3) 周期性好中球減少症の除外
(4) エピソードの間欠期の症状の完全消失
(5) 発育・発達に正常
 3. IgA 血管炎（アレルギー性紫斑病、Henoch-Schönlein 症候群） 1. あり 2. なし
IgA 血管炎の診断基準（EULAR/PRINTO/PRES 診断基準）
隆起性の紫斑（palpable purpura）に以下のいずれかをともなう
(1) 全般性の腹痛 (2) 生検でIgAを主体とした沈着 (3) 急性関節炎/関節痛 (4) 腎合併症（血尿または蛋白尿）
6. 貴施設では初期治療法の選択をスコアなどで層別化して選択していますか。
 1. 初回治療では層別化せず、全症例同じ治療方法である → 以上で質問は終わりです
 2. 初回治療の前に層別化して治療法を選択している（7. に進んでください）
 3. その他 ()
7. 層別化している場合、使用しているスコアと判断基準をお示しください。
 1. 小林（群馬大）スコア () 点以上
 2. 江上（久留米大）スコア () 点以上
 3. 佐野（大阪研究グループ）スコア () 点以上
 4. 上記以外のスコアと基準を利用 ()
8. 6で層別化された重症例・不応例の治療法はどれですか。
 1. IVIG + プレドニン 2mg/kg/日 以降漸減（RAISE 方式）
 2. IVIG + ステロイドパルス療法
 3. その他 ()

ありがとうございました。